

平成 22 年

彦根市子ども議会会議録

2 月  
( 2 月 6 日 )

彦 根 市 議 会



平成 2 2 年 2 月

## 彦根市子ども議会会議録総目次

2月6日(土)

議事日程 .....	1
本日の会議に付した事件 .....	1
会議に出席した議員 .....	1
会議に欠席した議員 .....	1
議場に出席した事務局職員 .....	1
会議に出席した説明員 .....	2
開会 .....	3
開議 .....	3
会議録署名議員の指名(5番 鹿島紗也香さん(稲枝東小学校)、16番 角田凌さん(城北小学校)) .....	3
会期の決定 .....	3
彦根市政について(一般質問) .....	3
14番 石田実果さん(城西小学校) 質問 .....	3
花や木を公園に植えるなど彦根をきれいにする取り組み .....	3
寺嶋都市建設部長 答弁 .....	4
23番 和田きららさん(城東小学校) 質問 .....	4
商店街の空き店舗対策 .....	4
竹内産業部長 答弁 .....	4
商店街の空き店舗を利用してひこにゃんの家をつくっては .....	5
長崎企画振興部参事 答弁 .....	5
15番 横田祐朔さん(旭森小学校) 質問 .....	6
安全で大きな公園をつくってほしい .....	6
寺嶋都市建設部長 答弁 .....	6
32番 谷口深琴さん(若葉小学校) 質問 .....	7
観光客を増やす取り組みは .....	7
竹内産業部長 答弁 .....	7
彦根城の観光客に彦根の名産品をプレゼントしては .....	8
竹内産業部長 答弁 .....	9
33番 藤本凜太郎さん(稲枝北小学校) 質問 .....	9
彦根市の食料自給率を高める取り組みは .....	9
竹内産業部長 答弁 .....	9

34番 成瀬 遊さん(亀山小学校)	質問	10
まちの街灯の色を青色に変えて、数をもっと増やし、治安のよい彦根市にしたい		10
中嶋企画振興部長	答弁	10
27番 宮尾和希さん(鳥居本小学校)	質問	11
体の不自由な人が使いやすい公共施設整備について		11
寺嶋都市建設部長	答弁	12
29番 田中千晴さん(城南小学校)	質問	12
学校間の交流や、子どもが開催するイベントを		12
小田柿教育長	答弁	13
1番 北川伊央里さん(城北小学校)	質問	14
体の不自由な人に対する工夫について		14
成宮福祉保健部長	答弁	14
18番 三谷桃香さん(河瀬小学校)	質問	15
南地区に図書館を建設することについて		15
藤井副市長	答弁	15
9番 西川央基さん(佐和山小学校)	質問	15
佐和山の登山ルート of 整備と案内板		15
竹内産業部長	答弁	16
30番 沓水悠馬さん(金城小学校)	質問	16
図書館の利用策について		16
小田柿教育長	答弁	17
10番 宇佐美壮平さん(平田小学校)	質問	18
市議会について		18
辻議会事務局長	答弁	18
11番 白木彩音さん(高宮小学校)	質問	19
琵琶湖岸の風を利用した風力発電所をつくっては		19
東市民環境部長	答弁	19
28番 小松 翔さん(平田小学校)	質問	20
学校施設について		20
小財教育部長	答弁	20
19番 藤野拓馬さん(稲枝東小学校)	質問	21
芝生のグラウンドをつくってほしい		21
小財教育部長	答弁	22
16番 角田 凌さん(城北小学校)	質問	22
交通混雑をなくすための工夫		22

竹内産業部長	答弁	23
26番 岡 智康さん(若葉小学校)	質問	23
彦根市の歴史の漫画本をつくったらどうか		23
松岡文化財部長	答弁	24
12番 飯島悠太さん(金城小学校)	質問	24
通学路の安全対策について		24
小田柿教育長	答弁	25
3番 吉岡あや音さん(城南小学校)	質問	26
店の照明を弱めるなどの対策や工夫		26
東市民環境部長	答弁	26
20番 安居佑馬さん(稲枝西小学校)	質問	27
本校のわんぱく池を整備してほしい		27
小田柿教育長	答弁	27
6番 清長遼太さん(鳥居本小学校)	質問	28
地域の人と観光客が交流できるイベントについて		28
竹内産業部長	答弁	28
4番 堀田航希さん(城西小学校)	質問	29
城下に近代的な建物が増えないようにする		29
獅山市長	答弁	29
8番 杉原裕也さん(稲枝北小学校)	質問	30
琵琶湖をきれいにする取り組みについて		30
東市民環境部長	答弁	30
31番 岡本和路さん(高宮小学校)	質問	31
彦根市のインフルエンザ対策について、どんな取り組みをしているのか		31
横井総務部危機管理監	答弁	32
学校での予防接種はできないのか		32
成宮福祉保健部長	答弁	32
17番 岡田衣咲さん(旭森小学校)	質問	33
彦根市の生物に関する取り組み		33
東市民環境部長	答弁	33
22番 藤本ひかるさん(城東小学校)	質問	34
ユニバーサルデザイン、バリアフリー化		34
成宮福祉保健部長	答弁	34
災害時障害者支援ボランティアについて		34
成宮福祉保健部長	答弁	35
21番 辻 貴子さん(城陽小学校)	質問	36

学習等に自由に使えるスクールバスについて .....		36
小財教育部長	答弁 .....	36
2番 高橋勇貴さん(佐和山小学校)	質問 .....	37
彦根市の自然保護について .....		37
東市民環境部長	答弁 .....	37
5番 鹿島沙也香さん(稲枝東小学校)	質問 .....	38
お城まつりパレードに中学生も参加できないか .....		38
竹内産業部長	答弁 .....	39
7番 小倉倭人さん(稲枝西小学校)	質問 .....	39
佐和山城を再建してほしい .....		39
松田副市长	答弁 .....	39
13番 中村公哉さん(城陽小学校)	質問 .....	40
老人ホームや総合病院、お医者さんを増やしてほしい .....		40
成宮福祉保健部長	答弁 .....	40
25番 清水奈月さん(亀山小学校)	質問 .....	41
通学路にあるプラタナスの木に、毎年、大発生する毛虫等の駆除について .....		41
寺嶋都市建設部長	答弁 .....	42
24番 田辺雪瑛さん(河瀬小学校)	質問 .....	42
捨てられるペットの対策は .....		42
東市民環境部長	答弁 .....	42
閉会 .....		43

平成22年 2月6日

## 2月彦根市子ども議会会議録

【第1日】





# 2月彦根市子ども議会会議録

平成22年2月6日(土曜日)

---

## 議事日程

- 第1 会議録署名議員の指名
- 第2 会期の決定
- 第3 彦根市政について(一般質問)

---

## 本日の会議に付した事件

- 日程第1 会議録署名議員の指名
- 日程第2 会期の決定
- 日程第3 彦根市政について(一般質問)

---

## 会議に出席した議員(34名)

- |                      |                       |
|----------------------|-----------------------|
| 1番 北川 伊央里 さん(城北小学校)  | 18番 三谷 桃香 さん(河瀬小学校)   |
| 2番 高橋 勇貴 さん(佐和山小学校)  | 19番 藤野 拓馬 さん(稲枝東小学校)  |
| 3番 吉岡 あや音 さん(城南小学校)  | 20番 安居 佑馬 さん(稲枝西小学校)  |
| 4番 堀田 航希 さん(城西小学校)   | 21番 辻 貴子 さん(城陽小学校)    |
| 5番 鹿島 沙也香 さん(稲枝東小学校) | 22番 藤本 ひかる さん(城東小学校)  |
| 6番 清長 遼太 さん(鳥居本小学校)  | 23番 和田 きらら さん(城東小学校)  |
| 7番 小倉 倭人 さん(稲枝西小学校)  | 24番 田辺 雪瑛 さん(河瀬小学校)   |
| 8番 杉原 裕也 さん(稲枝北小学校)  | 25番 清水 奈月 さん(亀山小学校)   |
| 9番 西川 央基 さん(佐和山小学校)  | 26番 岡 智康 さん(若葉小学校)    |
| 10番 宇佐美 壮平 さん(平田小学校) | 27番 宮尾 和希 さん(鳥居本小学校)  |
| 11番 白木 彩音 さん(高宮小学校)  | 28番 小松 翔 さん(平田小学校)    |
| 12番 飯島 悠太 さん(金城小学校)  | 29番 田中 千晴 さん(城南小学校)   |
| 13番 中村 公哉 さん(城陽小学校)  | 30番 沓水 悠馬 さん(金城小学校)   |
| 14番 石田 実果 さん(城西小学校)  | 31番 岡本 和路 さん(高宮小学校)   |
| 15番 横田 祐朔 さん(旭森小学校)  | 32番 谷口 深琴 さん(若葉小学校)   |
| 16番 角田 凌 さん(城北小学校)   | 33番 藤本 凜太郎 さん(稲枝北小学校) |
| 17番 岡田 衣咲 さん(旭森小学校)  | 34番 成瀬 遊 さん(亀山小学校)    |

---

## 会議に欠席した議員(なし)

---

議場に出席した事務局職員

事務局 長	辻	克	茂	
事務局 次長	大	倉	浩	
副主幹兼議事係長	高	田	秀	樹
書 記	草	川	高	章

---

会議に出席した説明員

市 長	獅	山	向	洋	さん	都市建設部長	寺	嶋	勲	さん		
副 市 長	松	田	一	義	さん	下水道部長	八	若	和	美	さん	
副 市 長	藤	井	比	早	之	さん	会計管理者	山	田	茂	生	さん
企画振興部長	中	嶋	修	さん		水道部長	外	川	嘉	壽	博	さん
企画振興部参事	長	崎	隆	義	さん	病院事務局長	堤	健	郎	さん		
企画振興部参事	堀	川	英	雄	さん	教 育 長	小	田	柿	幸	男	さん
総務部長	中	村	宇	一	さん	教 育 部 長	小	財	久	仁	夫	さん
総務部危機管理監	横	井	康	素	さん	文化財部長	松	岡	一	男	さん	
総務部参事	西	村	順	一	郎	さん	議会事務局長	辻	克	茂	さん	
市民環境部長	東	幸	子	さん		企画振興部次長	野	崎	典	秀	さん	
福祉保健部長	成	宮	博	和	さん	財政課長	辰	巳	清	さん		
産 業 部 長	竹	内	彰	さん								

午前 8 時 5 6 分開議

第 1 グループ議長（吉岡あや音さん） 最初に議長をします城南小学校の吉岡あや音  
です。よろしくお願いします。

ただいまから平成 22 年 2 月彦根市子ども議会を開会します。

ただちに会議を始めます。

---

#### 日程第 1 会議録署名議員の指名

第 1 グループ議長（吉岡あや音さん） 日程第 1、会議録署名議員を指名します。

会議録署名議員に 5 番鹿島沙也香さん、16 番角田凌さんを指名します。

---

#### 日程第 2 会期の決定

第 1 グループ議長（吉岡あや音さん） 日程第 2、会期の決定を議題とします。

お聞きします。今回の彦根市子ども議会の会期は、本日 1 日としたいと思います。これ  
に異議はありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

第 1 グループ議長（吉岡あや音さん） 異議なしと判断します。

今回の彦根市子ども議会の会期は、本日 1 日と決定しました。

---

#### 日程第 3 彦根市政について（一般質問）

第 1 グループ議長（吉岡あや音さん） 日程第 3、彦根市政についてを議題とし、質  
問を行います。

34 名の皆さんから質問が提出されていますので、三つのグループに分かれて行います。

まず、第 1 グループの順番は、14 番石田実果さん、23 番和田きららさん、15 番横  
田祐朔さん、32 番谷口深琴さん、33 番藤本凜太郎さん、34 番成瀬遊さん、27 番宮  
尾和希さん、29 番田中千晴さん、1 番北川伊央里さん、18 番三谷桃香さん、9 番西川  
央基さん、30 番沓水悠馬さんの順とし、順番に第 2 演壇まで来て質問してください。

14 番石田実果さん。14 番。

14 番（石田実果さん） 私は、彦根市内に花や木を植えてきれいにするための取り  
組みについて提案します。

最近、自然が少なくなってきました。そこで、まち中に花や木などの植物を植えて、  
自然を取り戻す取り組みをするべきだと思います。

私は、彦根市が、観光で遠くから来る人たちに「彦根市はきれいだな」と思われるよう  
にしたいです。また、彦根市に住んでいる私たちも自然を見て気持ちが豊かになるように  
したいです。そのためには、公園や道端などに季節に合った花や木などの植物を植えたら  
いいと思います。そして、みんなで協力し合って水やりなどのお世話をすることで、彦根  
市の人たちの交流が深まればいいと思います。市民の心が一つになることでよいまちがで

きると思います。

だから、彦根市を木や花などの植物でいっぱいにして、植物と人がふれあえること、自然を取り戻すことを提案します。

第1グループ議長（吉岡あや音さん） 都市建設部長。

都市建設部長（寺嶋 勲さん） 石田さんのまちなかに花や木を植えて自然を取り戻す提案についてお答えします。

色とりどりの花や豊かな緑は、人々の心を和ませ、まちに潤いと安らぎを与えるほか、空気をきれいにするなど環境の浄化にも効果があり、まちにとっては非常に大切なものです。

このため、彦根市では、新しい公園を整備したり、学校や市役所などの公共施設に木を植えたりして、花や緑を増やしています。また、市民の方々にも花や緑を増やしていただくよう啓発活動にも取り組んでいます。

しかし、花や緑の管理には、病害虫の対策や除草、そして水の管理など、多額の経費が必要となり、思うように花や緑が増加していないのが現状です。このため、自治会やボランティアの方々に公園の清掃や除草などをお願いしており、例えば庄堺公園では、ボランティアの方々にバラ園の花壇の管理を行っていただいています。

石田さんは、花や木をまち中に植えて彦根をきれいにする取り組みを提案され、しかも、水やりなど植物の管理をみんなで協力し合って行うことによって地域の交流につながるというご意見をいただきました。これはとても素晴らしいことだと思います。

最近では、市民や市民団体から、駅前や公園などに木の寄附をいただいたり、花壇の管理に取り組んでいただいたりしております。また彦根市でも、花や緑の大切さを市民の皆さんに知ってもらうため、「広報ひこね」や公園のパンフレットなどに花や緑を増やすことの大切さを訴えています。これからも市民の皆さんと協働して、緑豊かなまちになるよう少しずつ取り組んでいきたいと考えています。

第1グループ議長（吉岡あや音さん） 14番。

14番（石田実果さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

第1グループ議長（吉岡あや音さん） 23番和田きららさん。23番。

23番（和田きららさん） 私は、商店街の空き店舗対策について質問します。

私は、花しょうぶ通り商店街に住んでいて、お父さんが役員をしているので、よく空き店舗の話の話を聞きます。市長さんは、彦根市内の空き店舗対策についてどのように考えておられますか。

第1グループ議長（吉岡あや音さん） 産業部長。

産業部長（竹内 彰さん） 商店街の空き店舗対策についてお答えします。

現在、彦根市内には、彦根城周辺に11の商店街があるほかに、河瀬駅前、高宮、ベルロードなどにも商店街がありますが、大型スーパーができた影響や商店街周辺に住む人が

減ったことなどで、買い物に来られるお客さんの数が少なくなり、空き店舗が増え、商店街に元気がなくなってきています。したがって、まちに元気を取り戻すために、これらの空き店舗をどのようにして減らしていくかが課題となっています。

そこで、彦根市と彦根商工会議所では、平成14年度より、商店街の空き店舗を使って新しくお店を始めたいという人に、1カ月当たり5万円を限度に6カ月間の家賃を補助する「チャレンジショップ事業」や、商店街にとって必要なお店を誘致する場合に空き店舗の修理や改装にかかる費用の2分の1を、15万円を限度として補助する「テナントミックス事業」を行っており、今年度はチャレンジショップ事業で3件、テナントミックス事業で1件の空き店舗が新たに営業を始めています。なお、これらに係る今年度の補助金の合計は70万円になる予定です。

さらに、まちに元気を取り戻すために、それぞれの商店街が空き店舗を利用して行う活動に対しても補助金を出すなどして応援しています。和田さんがお住まいの花しょうぶ通り商店街にある「戦国丸」もその一つで、平成19年度から今年度にかけて、改装費や運営費の2分の1を滋賀県が、さらに4分の1を彦根市が補助しています。これらは寺子屋力石とともに、地元の皆さんのユニークな取り組みとして、全国から多くの観光客が訪れている空き店舗対策の成功例と言えます。

このように、商店街の空き店舗対策は、地元の皆さんがその場所をどのように活用したいかを十分話し合うことが重要であり、そのアイデアをもとに、地元商店街と市や商工会議所などが一緒になって取り組む必要があると考えています。

以上です。

第1グループ議長（吉岡あや音さん） 23番。

23番（和田きららさん） 私は、次のような空き店舗対策を提案します。

ひこにゃんは彦根城に住んでいるとされていますが、彦根城に住んでいなくても、彦根に住んでいたらいいと思うので、ひこにゃんの家を市内あちこちにつくればいいと思います。その場所に空き店舗を利用するというのはどうでしょうか。ひこにゃんの家ではグッズを売っていたり、ひこにゃんの大きなパネルと一緒に写真が撮れたり、決まった日に本物のひこにゃんが来てあいさつをしたりするのはどうでしょうか。また、スタンプを設置して、スタンプラリーを行い、全部集めたらグッズがもらえるというのはどうでしょうか。彦根の観光、そして商店街の盛り上げにつながると思います。どうか検討してください。

第1グループ議長（吉岡あや音さん） 企画振興部参事。

企画振興部参事（長崎隆義さん） 商店街の空き店舗を利用してひこにゃんの家をつくってはという和田さんのご提案にお答えいたします。

平成19年に開催いたしました国宝・彦根城築城400年祭のキャラクターとして誕生したひこにゃんですが、ことしも年賀状が1万3,000通以上届くなど、多くの皆さんに愛され、ひこにゃんに会うために、全国各地からたくさんの方が彦根城にいられています。

ひこにゃんは、ご存じのように、彦根城のある金亀町1番1号を住所として、特別住民登録をしています。また、ひこにゃんは毎週土曜日や日曜日、祝日を中心に彦根城に登場していますが、ひこにゃんが登場しているときはたくさんの方が来られています。こうして全国から来られた方々に安全にひこにゃんをごらんいただくためには、彦根城のような広い大きな場所が必要となります。

空き店舗をひこにゃんの家にしてひこにゃんを登場させることについては、来られる方々の安全を考え、広い場所の確保や十分な受け入れ態勢をとることなどを検討していく必要があると思っています。このようなことから、ひこにゃんの家は彦根城が一番いいと思いますが、全国から来られた方々に彦根城から市内の商店街に回ってもらえるような工夫しなければならないと思っています。

和田さんの提案の中にあるスタンプラリーも一つの方法だと思います。彦根には、和田さんが住んでおられる花しょうぶ通り商店街のしまさこにゃんやいしだみつにゃん、おおたににゃんぶ、四番町スクエアのやちにゃん、銀座商店街のあびすくんなど、それぞれの商店街にキャラクターがいて、このキャラクターとひこにゃんのスタンプを設置し、彦根城と市内の商店街を回るスタンプラリーというのもおもしろいと思います。

また、商店街の活性化や彦根の観光を盛り上げるため、安全面や十分な受け入れ態勢を整えながら、市内の商店街で開催されるいろんなイベントのときなどにひこにゃんが登場することはこれからも続けていきたいと思っています。

第1グループ議長（吉岡あや音さん） 23番。

23番（和田きららさん） 質問や提案に答えてくださってありがとうございました。

これで私の質問を終わります。

第1グループ議長（吉岡あや音さん） 15番横田祐朔さん。15番。

15番（横田祐朔さん） 僕は、子どもたちの新しい遊び場について提案します。

最近、僕は、外で野球をしたり、ドッジボールをすることが少なくなり、逆の意味で言えば、家でカードゲームをしたり、テレビゲームをすることが増えてきました。多分、団地内や学区内で思い切り遊べるような安全で大きな公園が少ないので、その分外で遊ぶ機会が減ったのだと思います。

そこで、安全で大きな公園がつかれないかと思いました。

僕は彦根市の大堀町に住んでいます。近くに公園は幾つかありますが、鉄道が目の前を通っていたりとか、野球をしてはいけないとか、いつも気を使いながら遊んでいて、なかなか広々とは遊べません。どこか大きな公園に行くにも、車でないと行けなかったり、子どもだけではすぐに行けなかったりします。安全で大きな公園をもっと増やせば、子どもたちの遊びの幅も広がると思いました。

だから、僕は、安全で大きな公園を増やすことを提案します。

第1グループ議長（吉岡あや音さん） 都市建設部長。

都市建設部長（寺嶋 勲さん） 横田さんの安全で大きな公園をつくる提案について

お答えいたします。

彦根市内の公園は、大規模公園、中規模公園、そして小規模公園に分類されます。大規模公園は、金亀公園、千鳥ヶ丘公園、そして荒神山公園の三つの公園がありますが、遠くの人でも利用できるようないろいろな施設のある総合公園で、野球、サッカーなど、スポーツのできる大きなグラウンドがあります。中規模公園は、庄堺公園や福満公園など市内に七つの公園があり、比較的大きなグラウンドを持っていますが、中にはボール遊びの制限をしている公園もあります。また、小規模公園は、住宅地の中に設置された地域の人たちのための公園であり、大きな広場はありませんが、遊具やベンチなどが設置されている公園で、市内には約270カ所あります。

横田さんの住んでおられる旭森地区には、中規模公園である旭森公園と旭森ふれあい広場がありますが、グラウンドの規模から安全を考えて、キャッチボール程度の利用となっています。みんなの公園としてほかの人たちに迷惑とならないよう、公園の規模に合った利用の仕方をお願いしています。

横田さんが提案されているように、安全で大きな公園が近くにできたら、いつでも安心して遊べると思いますので、たくさん造りたいのですが、市内にはまだ中規模公園のない地域もありますので、まずはそれらの公園を造っていかなくてはなりませんので、すぐには新しい大きな公園は造れない状況です。

横田さんの提案を今すぐ実現することは難しいのですが、今後の公園整備の参考とさせていただきますので、今ある公園などを有効に利用していただきたいと思います。

第1グループ議長（吉岡あや音さん） 15番。

15番（横田祐朔さん） ありがとうございます。

以上で僕の質問を終わります。

第1グループ議長（吉岡あや音さん） 32番谷口深琴さん。32番。

32番（谷口深琴さん） 私は、彦根市の観光客を増やす取り組みについて質問します。

国宝・彦根城築城400年祭や井伊直弼と開国150年祭が続いて行われています。400年祭のころは、たくさんの方が彦根に来たと聞きました。そのころと比べて今がどうかわかりませんが、私は彦根城の周りを車で走っていると、滋賀県以外のナンバーをつけた自動車を少ししか見ません。それで思いました。400年祭のときほどお客さんが来ておられないのではないのでしょうか。彦根市では、彦根市の観光客を増やす取り組みを何か考えておられますか。教えてください。

第1グループ議長（吉岡あや音さん） 産業部長。

産業部長（竹内 彰さん） 彦根市では、平成19年の国宝・彦根城築城400年祭、また平成20年からことしにかけての井伊直弼と開国150年祭とイベントを行ってきました。

お尋ねの彦根への観光客数ですが、城山入山者数では、400年祭の平成19年度は年

間約 85 万人でした。150 年祭がスタートした平成 20 年度は約 67 万人、平成 21 年度、昨年は 4 月から 12 月までで約 64 万人です。確かに 400 年祭時はこれまでに比べ格段に多い数字ですが、150 年祭開催のここ 2 年でも、それ以前に比べると 20 万人以上観光客が増えています。

また、駐車場利用数でも、普通車で見ますと、400 年祭時は 18 万台の利用がありました。平成 20 年度は約 17 万台、平成 21 年度は 4 月から 12 月までで約 14 万台です。400 年祭時は、二の丸駐車場が利用できなかったこと、また京橋口駐車場が新たに設置されたことも利用者数変動の要因ですが、一方では、昨年から高速道路割引が実施され、この影響による観光シーズンの土日や連休時の市内の交通渋滞にも見られるように、駐車台数は目立って減少していません。

今、彦根市では、広域的な観光に重点的に取り組んでいます。これまでも近隣の多賀町、甲良町、豊郷町、愛荘町と協力して進めてきましたが、さらに今年度からは、北は長浜市から南は日野町までを一つの観光エリアとして、この地域全体を観光客に回っていただくことに取り組んでいます。

また、来年の NHK 大河ドラマが「江～姫たちの戦国～」に決まり、このエリアにスポットが当たることが予想されますが、この放映ともあわせて、このエリアへお客様に回っていただけるよう情報発信をしていきたいと考えています。

彦根市としましては、井伊直弼と開国 150 年祭がこの 3 月をもって閉幕しますので、その後の取り組みとして、ことしから「戦国」をテーマにいろいろな取り組みを市民団体とともに進めていくことで多くの観光客に来ていただきたいと考えております。彦根市には戦国時代の遺産「佐和山城跡」を初め、城跡が多くあります。彦根城のみならず、荒神山周辺地域など、市全体で観光資源の発掘を進め、情報発信するとともに、彦根へ来られる方々を市民みんなで気持ちよくお迎えできるよう、案内の充実やイベントの企画を進めてまいりたいと考えています。

以上です。

第 1 グループ議長（吉岡あや音さん） 32 番。

32 番（谷口深琴さん） 今言われたことでお客さんが増えたらいいと思います。

実は先日、私は、ニュースの特集で石川県の観光客を増やす取り組みについてやっているのを見ました。飛行機の座席番号を使って、抽選で石川県の名産のカニをプレゼントし、観光客が順調に増えたそうです。

彦根市でも、お城に来た方に彦根の名産品をプレゼントしてはどうでしょうか。例えばひこにゃんグッズ、鮎などはどうでしょうか。彦根市の名産品をプレゼントすれば、再びその品を求めて来る方もいると思います。お城や彦根について知ってもらえると思います。宣伝広告にもなるので、協力してもらえる企業もあると思いますし、財政難、不景気の中、効果的な方法だと思います。

第 1 グループ議長（吉岡あや音さん） 産業部長。



産業部長（竹内 彰さん） 彦根市では、ご質問のような、お城に来られた方にプレゼントをする取り組みは行っておりませんが、毎年、愛荘町、豊郷町、甲良町、多賀町とで組織しているびわこ湖東路観光協議会でスタンプラリーを実施し、彦根城など各ポイント地点で必要なスタンプ数を集められた方に抽選で湖東地域の特産品をプレゼントしています。

また、秋の城まつりシーズンには、小江戸彦根の城まつり実行委員会の企画による「彦根いい秋散策プランスタンプラリー」を行っており、必要なスタンプ数を集められた方全員に記念品をプレゼントしています。ちなみに、ことしの記念品はひこにゃんハンカチとなっており、さらにアンケートにお答えいただいた方には、抽選で近江牛のみそ漬けや鮎の佃煮など彦根の特産品が当たる企画を実施しました。

その他、滋賀県とJR西日本が行う「滋賀の旅」や近畿地方の市町や旅行者などの民間団体からなる歴史街道推進協議会でも、プレゼントが当たるスタンプラリーが実施されています。

ご提案のとおり、このような企画はお客様に喜ばれるだけでなく宣伝効果も大きいと思いますが、彦根城は世界遺産暫定一覧表に記載されており、全国的に注目され、文化財的な価値が見直されています。このようなまちなみの保存整備も含め、歴史文化遺産の付加価値を高めて観光資源として活用していくことはより大切なことだと考えております。

以上です。

第1グループ議長（吉岡あや音さん） 32番。

32番（谷口深琴さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

第1グループ議長（吉岡あや音さん） 33番藤本凜太郎さん。33番。

33番（藤本凜太郎さん） 僕は、彦根市の食料自給率を高める取り組みについて質問します。

最近、テレビで日本の食料自給率が減っているということを知り、驚きました。食料自給率が減っているということは、自分の国で農作物をつくらなくなってきていることです。すると、日本の農業も発展しなくなってしまうと思います。また、食料自給率が減った分だけ、外国の輸入に頼ることになります。もし外国から輸入できなくなってしまうと、日本は食べ物に困ってしまいます。

そこで、僕は、困ったことになる前に、食料自給率を高める取り組みをした方がよいと思います。彦根市での食料自給率を高める取り組みについて教えてください。

第1グループ議長（吉岡あや音さん） 産業部長。

産業部長（竹内 彰さん） 食料自給率とは、日本で必要な食料が日本の農林水産業からどの程度自給できているかをあらわす数値です。今から50年前の食料自給率は約70から80%ありましたが、その後年々低下してきました。ちなみに、平成20年度の日本国内における食料自給率は約41%と、先進国の中では非常に低い数値になっています。

す。低下の大きな要因としては、食生活の洋風化が急速に進行し、米・野菜・魚類主流の食事が減り、肉・油脂類を使った食事が増えてきたことがあります。現在、完全に自給できているのは米だけであり、その他の食材の多くを海外に依存している状況です。

したがって、藤本さんのご質問のとおり、外国からこのような食料が輸入されなくなったら、私たちの毎日の食生活に大きな影響を及ぼすことになります。

そこで、食料自給率を高める取り組みですが、麦を収穫した後に大豆を植えるなど、1年に二つの作物を収穫することで少ない農地を有効利用したり、作物を植えることができない状態になってしまっている荒れた農地を再び作物が植えられ収穫ができるようになる取り組みも行っていきます。

また、地産地消といって、地元で生産された安全で安心な食材をその地域で消費する取り組みも進めています。例えば学校給食では、一昨年からは彦根産のお米を使ったり、昨年の9月には石寺産の彦根梨を、11月には滋賀県産小麦を使ったうどんや琵琶湖産スジエビのかき揚げ、同じく石寺産の彦根柿など、地元食材を使った献立にしており、今後も地元の食材を給食に取り入れていきたいと考えています。

しかし、彦根市でとれるものだけでは種類や量とも不足しているため、近隣の愛荘町、豊郷町、甲良町、多賀町と協力して、この地産地消の取り組みを進め、生産量を増やすことによって食料自給率を高めていきたいと考えております。

以上です。

第1グループ議長（吉岡あや音さん） 33番。

33番（藤本凜太郎さん） ありがとうございます。

これで僕の質問を終わります。

第1グループ議長（吉岡あや音さん） 34番成瀬遊さん。34番。

34番（成瀬 遊さん） 僕は、まちの街灯について提案します。

テレビで街頭の色を青色にすると防犯効果があると聞きました。彦根では、街灯の色が白色から青色に変わっているところもありますが、僕たちのまちの街灯の色は白色です。さらに、遊びにいった帰ってくる時に使う通学路には街灯がありません。特にこの冬の季節は6時ぐらいになると暗くなるので、街灯の数をもっと増やしてほしいです。

街灯の色を青色に変えたり、街灯の数を増やしたりすると、しっかり防犯がしてある住みよい彦根市になると思います。

だから、街灯の色を青色に変えること、街灯の数を増やすことを提案します。

第1グループ議長（吉岡あや音さん） 企画振興部長。

企画振興部長（中嶋 修さん） 成瀬さんのご提案についてお答えさせていただきます。

まず、街灯の色を青色に変える提案についてですけれども、日本で青色防犯灯が設置されるようになったのは、あるテレビ番組の中で、外国で青色防犯灯を設置して犯罪が減少したという事例が紹介されたことがきっかけだと言われています。

市内でも、自治会などで青色の防犯灯を設置されているところがありますし、全国的に見ても、自殺防止や事故防止などを目的に青色照明を活用する事例は増えているようですが、青色の防犯灯の犯罪防止効果については、いろいろ検証は行われていますけれども、まだはっきりしているわけではありません。青色の防犯灯がついているところでは、自治会でパトロールを実施するなど、その地区の防犯の意識が高く、結果的に犯罪が起これにくいのではないかとこの意見もありまして、自治会などの地域団体や市、警察などが一体となって防犯活動を行うことが何よりも重要であると考えています。

こうしたことから、防犯灯の色については、その地域の状況に応じて考えていただくことが必要であると思っております。

次に、街灯の数を増やしてほしいということですが、街灯をつける場所については、だれがつけるかなどについて基準があります。交差点や横断歩道、大きな橋のあるところなどについては、交通安全の面などから、道路を管理している県や市が道路を照らす街灯をつけています。また、皆さんが住んでいる自治会内やその周りで暗いところについては、自治会などで防犯灯をつけていただいております。市は設置費用に対しておおよそ半分くらいのお金を出しております。さらに、これ以外の場所で、自治会等の地域からの要望のあったところについても、状況に応じて必要性を判断して、市が防犯灯を設置していません。

安全で安心して暮らせるまちづくりの一環として、これからも、限られた予算の中ではありますけれども、必要性の高いところから設置を検討していきたいと考えています。

第1グループ議長（吉岡あや音さん） 34番。

34番（成瀬 遊さん） ありがとうございます。

これで僕の質問を終わります。

第1グループ議長（吉岡あや音さん） 27番宮尾和希さん。27番。

27番（宮尾和希さん） 公共施設の設備について質問します。

彦根市では、体の不自由な人も使いやすいように、市内の施設をつくるときにどんな工夫をされていますか。

私は、2学期に国語科の学習で、地域のユニバーサルデザインを調べる学習をしました。学校の設備について調べて、体育館前のスロープには片方にしか手すりがついていないことに気づきました。体の不自由な人は、手すりがついていない側を通るときに不便な思いをするのではないかと思います。

公共施設が多くの人にとって使いやすいように、私は、設備の使いやすさについて地域の人にアンケートをとったり、困ることがないかを聞いたりして、多くの人との意見を交流できる機会があれば、よりよいアイデアが生まれると思います。

彦根市が、多くの人にとって使いやすいように、公共施設をつくるときに、工夫したり、心がけたりしておられることを聞かせてください。

第1グループ議長（吉岡あや音さん） 都市建設部長。

都市建設部長（寺嶋 勲さん） 宮尾さんの公共施設の整備についての質問にお答えします。

彦根市が新しく公共施設をつくる時に工夫したり心がけたりしていることは、ユニバーサルデザインの考え方である、あらゆる人にとって使いやすく、人に優しい施設とすることです。例えば、車いすや歩いて移動するときにバリアとなる段差をできるだけつからないようにしています。どうしても段差が必要な場合は、初めからスロープにして手すりをつけたり、2階や3階への移動が容易にできるようにエレベーターの設置も行っています。また、赤ちゃんや小さい子どもを連れた人が簡単に利用できるよう、ベビーチェアを取りつけた多目的に使える便所も設置し、多くの人に使っていただけるようにしています。

このように、新しくつくる施設についてはユニバーサルデザインの考え方をもとにして整備を行っていますが、市内にはまだまだ古い公共施設がたくさんあり、この考えに基づいた整備ができていない施設があります。宮尾さんが通っている学校の体育館も同じように、かなり以前に建てられましたので、段差部分をスロープにつけ替えたり、手すりをつけたりして、バリアフリーの対策を行ったものです。手すりが片方にしかないところは、今後できるだけ両側手すりとしていきたいと思います。

今回の宮尾さんの提案のように、公共施設が多くの人にとって使いやすくなるためには、アンケートなどで、「ここはこのようなした方が使いやすい」といったご意見を聞かせていただくことは大切なことだと思います。いろんな方のご意見によって、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた施設ができ、さらにその考え方が皆さんに理解され、広がっていくことが大切だと考えています。

彦根市では、ユニバーサルデザインの考え方を積極的に取り入れながら、あらゆる人にとって使いやすい公共施設を目指して、これからも整備をしていきたいと思っています。

第1グループ議長（吉岡あや音さん） 27番。

27番（宮尾和希さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

第1グループ議長（吉岡あや音さん） 29番田中千晴さん。29番。

29番（田中千晴さん） 私は、小学生が中心となって活動できる三つのことを提案します。

まず、ほかの学校と交流会をすることについて提案します。なぜなら、私は、5年生で行ったフローティングスクールで、ほかの学校の人と仲よくなれて楽しかったからです。だから、私は、ほかの学校と交流会をしたいということについて提案します。

次に、それぞれの学校の発表会をしてみたいということについて提案します。なぜかと言うと、ほかの学校の特徴やイベントなどの発表を聞いて、それぞれの学校のいいところを取り入れたら、自分たちの学校がもっとよくなるのではないかと思ったからです。だから、私は、学校の発表会をしたいということについて提案します。

最後に、小学生が主催するイベントをしてみたいということについて提案します。このようなイベントをしたら観光客が増えるし、彦根の小学生はおもしろいと思ってくれるし、彦根が明るくなると思ったからです。だから、私は、子どもが主催するイベントをしてみたいということについて提案します。

第1グループ議長（吉岡あや音さん） 教育長。

教育長（小田柿幸男さん） 田中さんのご質問にお答えいたします。

一つ目の他の学校と交流会をしたいという提案についてお答えします。フローティングスクールでほかの学校の人と船に乗り、生活をともにし、カッター活動や琵琶湖学習をする中で、交流を深められたことがすばらしい思い出になったと思います。彦根市では、フローティングスクールのほかに、市内の小学校5年生、6年生が全員集まり、運動を通して他の学校の人と交流する陸上記録会や、合唱や合奏を通して交流するブロック別音楽会などがあります。ほかに、地域の特色を活かし、例えば中山道の宿場町として栄えた鳥居本小学校と高宮小学校では、中山道を歩いて学校を訪ね、交流を深めているということです。フローティングスクールと一緒に乗船した学校とその後も引き続いて交流することもよいのではないかと考えます。

次に、二つ目のそれぞれの学校の発表会をしたいという提案についてお答えします。田中さんの「他の学校のいいところを取り入れて自分たちの学校をよくしたい」というアイデアは、とてもすばらしいことだと思います。彦根市では、中学生においては「中学生広場」といって、市内の中学1年生全員がひこね市文化プラザに集まり、学校紹介をしたり、意見を発表したりするイベントがあります。小学校では、例えば、ことし導入される校内LANのコンピュータを使って、ビデオレターや学校紹介ガイドブックを作成し、学校間でやりとりすることも一つの方法だと考えます。

田中さんの貴重な意見は、彦根市内の小学校の校長先生に伝えますので、現在行われている交流会や発表会が今後一層充実したものになるよう、自分のアイデアを児童会で提案したり、学校の先生と相談したりしながら、どのような交流会や学習会ができるか、ぜひ考えてみてください。

最後に、小学生が主催するイベントをしてみたいという提案についてお答えします。小学生が参加するイベントとしては、城山写生大会や城まつりパレード、七夕祭り、子どもフェスティバルなどがありますが、もっともっと多くの小学生に参加してほしいと思っています。できればこうしたイベントにおいて、小学生が主催者の一員として企画・運営にかかわってほしいと願っています。そのために、身近なところで、毎年地域で行われている地蔵盆や夏祭りなどのイベントに、皆さん子どもたちが中心となって運営していくことも一つの方法だと考えます。子ども会や地域の役員の皆さんなどにも相談して、ぜひあなた方子どもが中心となって開催するイベントにしてほしいと願っております。期待をしております。

第1グループ議長（吉岡あや音さん） 29番。

29番(田中千晴さん) ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

第1グループ議長(吉岡あや音さん) 1番北川伊央里さん。1番。

1番(北川伊央里さん) 僕は、点字ブロックなどの体の不自由な人に対する工夫について質問します。

この前、テレビで、点字ブロックの上に自転車をとめている人が映されていました。僕は、学校の授業で、体の不自由な人に対する工夫を学びました。でも、どこも悪くない人が勝手に自転車をとめたり、使い方もわからないのに使ったりすると、全く意味がないと思います。点字ブロックは目の悪い人に対する工夫だと思うし、勝手に使われたりすると、それはすごく迷惑な話だと思います。

そこで、質問です。点字ブロックや道に自転車をとめたりする人にはどのような対策がされていますか。また、点字ブロックのほかにされている工夫や彦根市だけの工夫はありますか。

第1グループ議長(吉岡あや音さん) 福祉保健部長。

福祉保健部長(成宮博和さん) お答えいたします。

点字ブロック上や道路に放置されました自転車の対応につきましては、平成9年に制定された彦根市自転車等の放置の防止に関する条例というのがございます。これに基づき、彦根駅周辺、河瀬駅周辺ならびに南彦根駅周辺を自転車等放置禁止区域に指定しまして、今日まで放置自転車に対する啓発を行っております。市の職員が週2回から3回、それぞれの駅前において放置自転車に警告札を張るほか、週1回は駅前市営駐車場および自転車駐車場の管理者の方に朝のパトロールを実施していただいている状況です。

しかしながら、駅周辺の一部につきましては、啓発等を行っていませんものの、その他の地域での取り組みが十分でないということもあり、本市でも歩道の点字ブロック上に障害物がある状況がまだまだ見受けられます。

今後におきましては、このような迷惑行為が防止できるよう、県、市の道路管理や福祉等の担当課、警察、公安委員会等の関係者と協議しながら、また障害者団体等のご意見も聞きながら、啓発や防止対策を進めてまいりたいと思います。

次に、お尋ねの点字ブロックのほかに体の不自由な人に対する工夫につきましては、平成15年4月に制定した彦根市交通バリアフリー基本構想に基づきまして、彦根駅および南彦根駅周辺を取り組みの重点地区に定めまして、これまで点字ブロックの設置のほか、歩道と車道の段差解消や自転車と歩行者がそれぞれ安全に通行できるように配慮した路面の色分け等のバリアフリー化を行っております。また、目の不自由な方のために、音声の出る信号機も設置されております。

歩道に障害物があると、障害のある人にとって大変迷惑なものとなります。このようなことを解消していくためには、市民の皆さん一人ひとりに、障害のある人や障害のことについての関心または理解を深めていただくことが大切です。市では「広報ひこね」等を通

じまして、障害者問題に関する啓発活動を行っております。まちで困っている人を見かけたら、「お手伝いしましょうか」と声をかけていただければと思います。障害の状態にかかわらず、人々がお互いを認め合い、助け合い、彦根市がだれもが安心して出かけられるまち、温かい気持ちにあふれたまちになりますように、皆様のご協力をお願いいたします。

第1グループ議長（吉岡あや音さん） 1番。

1番（北川伊央里さん） ありがとうございます。

以上で質問を終わります。

第1グループ議長（吉岡あや音さん） 18番三谷桃香さん。18番。

18番（三谷桃香さん） 私は、彦根市の南地区に図書館をつくる計画があるかないかについて質問します。

彦根市に図書館は一つしかありません。私は、日ごろから図書館をよく利用します。しかし、私の家は図書館から遠いため、母に連れていってもらいます。そのため、限られたときにしか行けないので困ります。この図書館をつくることに関しては、昔から願いがあったことも勉強して知りました。私もぜひ南に図書館をつくってほしいと思います。

現在、図書館を利用する人が減っているということを聞きます。その理由は場所だと思えます。みんなが利用するショッピングセンター付近に設置すれば、利用者も増えると思えます。彦根市民に本をたくさん読んでもらいたいです。

だから、私は、南地区に図書館を設置することについて提案します。

第1グループ議長（吉岡あや音さん） 藤井副市長。

副市長（藤井比早之さん） 三谷さんのご提案についてお答えいたします。

三谷さんが言われたとおり、彦根市の図書館は彦根市の中では北部に位置しています。三谷さんの提案は、南地区に図書館を建設するということですが、新しい図書館をつくるということは、建築費用や運営費用など多額の予算が必要となります。現在、彦根市では、皆さんの生活がより便利になるように、定住自立圏構想の推進という国の制度を活用して、近隣の愛荘町、豊郷町、甲良町、多賀町と一緒に1市4町でさまざまな事業に取り組もうとしています。この取り組みの中で、彦根市の新しい図書館の整備や1市4町の図書館のネットワークの構築を検討しているところです。

新しい図書館の整備は、交通アクセスのよしあしや用地買収の問題、図書館の利用圏を考えた彦根市全体の配置のバランスなど、さまざまな課題を検討し、決定していきたいと考えています。

第1グループ議長（吉岡あや音さん） 18番。

18番（三谷桃香さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

第1グループ議長（吉岡あや音さん） 9番西川央基さん。9番。

9番（西川央基さん） 僕は、僕たちの小学校の名前でもある佐和山の登山ルート整

備について提案します。

彦根には、有名な歴史上の人物が数多くいました。その中でも、天下分け目の戦いと言われた関ヶ原の戦いの西軍で活躍した石田三成の城があった佐和山をPRするために、わかりやすい案内板や登山ルートをもっと気軽に登れる形にするといいと思って提案します。

今、ひこにゃんなどのゆるキャラの中に、石田三成をモデルにしたいしだみつにゃんがいます。前回のゆるキャラまつりでも、いしだみつにゃんは大人気だったので、今もっと気軽に登れ、わかりやすい案内板を設置して、日本中はもちろん世界にもアピールすれば、観光客も増え、彦根がもっと盛り上がると思います。

だから、佐和山の登山ルートを整備することを提案します。

第1グループ議長（吉岡あや音さん） 産業部長。

産業部長（竹内 彰さん） 佐和山城跡のハイキングコースの整備と案内板についてお答えいたします。

佐和山城跡については、最近は特に歴史に興味を持つ人が増えており、多くの方々に訪れていただいております。彦根市としましても、訪れた方々が佐和山城跡を楽しく安全に登っていただけるように、受け入れ態勢を整えていく必要があると考えております。

佐和山城跡は、彦根城と違って、個人の方が持ち主の山ですので、持ち主のご了解を得て、道に迷わないよう、ハイキングコースの途中に案内表示を設置するほか、コースの一部を歩きやすくなるように修理しております。また、彦根駅東にも佐和山城跡を表示した案内看板を新たに設置しました。さらには、彦根市で管理している龍潭寺前の駐車場に、佐和山城跡の案内所を設置し、ガイドを配置することや、登るときのマナーや注意点、周辺マップなどが書かれた看板の設置など、安心して山に登っていただくための取り組みを進める予定です。

佐和山城跡のほかに、市内各所に砦跡などの貴重な遺跡がたくさん残されていますが、これらを大切に守っていくとともに、観光にも活かせるように積極的にPRしていきたいと考えています。

以上です。

第1グループ議長（吉岡あや音さん） 9番。

9番（西川央基さん） ありがとうございます。

これで僕の質問を終わります。

第1グループ議長（吉岡あや音さん） 30番沓水悠馬さん。30番。

30番（沓水悠馬さん） 僕は、税金の使い方の一つを提案します。

彦根市はどれだけ税金を集めて、どのように使っていますか。

僕は、以前、テレビで、四国のある小学校が図書室にじゅうたんを敷いてソファを置いたことで本の貸し出し数が増えたと聞きました。また、福井では、朝や夜に図書室を開けるところもあると聞きました。

しかし、僕の学校の図書室は薄暗くて、新しい本やジャンルも少なく、開館時間が短い



と思っています。もし週に1回でも夜まで図書室が開いていたら、家族で利用することもできると思うし、図書館のような専門の人がいてくれたらもっと本がうまく使えると思っています。

僕は今よりもっと学校の図書室を利用してもらうための工夫に税金を使ってほしいと思います。

第1グループ議長（吉岡あや音さん） 教育長。

教育長（小田柿幸男さん） 彦根市の昨年度の例を挙げますと、市税といたしましては174億円あり、そのほか国からの補助金などもあります。このお金は、家庭から出るごみの処理や上水道や下水道の施設、市立病院の運営、さらには学校や道路などの公共施設をつくったり、修理したりするなど、皆さんの暮らしや生活等に役立つように使っております。

さて、沓水さんからの図書室に関する提案についてお答えします。学校の図書室を多くの子どもたちが利用するようにしたいという願いは、とても大事にしたい思いです。学校の図書室は、本を読んだり、調べ物をしたりするなどの学習の場であるため、明るい部屋であることは大事なことです。しかし、図書室には蔵書を増やすため、背の高い本棚を置いております。そのため光がさえぎられて、薄暗く感じることもあるようです。皆さんが学習の場として活用しやすい明るい図書室になるように、自然の光をできるだけ取り入れる工夫や蛍光灯などの照明が十分活かせる本棚の配置等工夫ができないか、考えていきたいと思います。また、沓水さんの学校の図書室では、絵本コーナーの前に畳が敷かれるなど、低学年が親しみやすい工夫がなされていますので、このような工夫も大事に行っていきたいと思っています。

新しい本の購入についてですが、彦根市では、各学校が本を買う費用として毎年予算をつけていますが、その予算は他の市や町と比べて多い方だという調査結果が出ております。その予算を使って、子どもたちの知識の深まりや広がりを考え、学習に活用できるように、学校の先生方にたくさんの本を計画的に買ってもらっております。また、子どもからアンケートをとって本を購入している学校もありますので、読みたいと思う本や欲しい本があれば、先生にぜひ相談してみてください。

次に、開館時間の問題ですが、福井県の教育委員会にお尋ねしましたが、夜まで図書館を開けている学校を探し出すことはできませんでした。学校の図書室は、子どもたちが学校にいる間は利用できるようにしなければなりません。子どもたちの安全面や学校の施設を管理する上からも、図書室を夜まで利用できるようにすることは大変難しいものがあります。

もう一つ、図書専門の人をつけるという話ですが、各学校には学校図書館司書教諭という役割をされている先生方を中心に、ボランティアの方々を初め、昨年10月から学校に来てもらっている読書活動支援員さんなどに、本の整備をしてもらったり、皆さんが活用しやすい読書環境づくりに取り組んでもらっております。

沓水さんの提案を参考に、今後も皆さんがよりよい環境で学習できるよう、税金の使い方、よりよい図書館の工夫、そういったものに努力をしていきたいと思えます。

第1グループ議長（吉岡あや音さん） 30番。

30番（沓水悠馬さん） ありがとうございます。

これで僕の質問を終わります。

第1グループ議長（吉岡あや音さん） しばらくの間休憩します。

午前 9時58分休憩

午前10時07分再開

第2グループ議長（辻 貴子さん） 議長を交替しました。城陽小学校の辻貴子です。よろしくお願ひします。

休憩の前に続いて、会議を開きます。

第2グループの順番は、10番宇佐美壮平さん、11番白木彩音さん、28番小松翔さん、19番藤野拓馬さん、16番角田凌さん、26番岡智康さん、12番飯島悠太さん、3番吉岡あや音さん、20番安居佑馬さん、6番清長遼太さん、4番堀田航希さん、8番杉原裕也さんの順とし、順番に第2演壇まで来て質問してください。

10番宇佐美壮平さん。10番。

10番（宇佐美壮平さん） 僕は、市議会について三つ質問したいと思えます。

一つ目は、国会は衆議院と参議院に分かれています、市議会では分かれていますか。また、議長はどのような仕事をし、どのような特権があるのですか、教えてください。

二つ目は、市議会では、何かを決めるときに、賛成の意見が多かったら必ず賛成になるのですか、教えてください。

最後に、ぜひ聞きたいことがあります。長浜市ではこの1月に合併したと聞きましたが、彦根市ではどうですか。市議会で、どこかと合併するような話し合いはされていますか、教えてください。

第2グループ議長（辻 貴子さん） 議会事務局長。

議会事務局長（辻 克茂さん） 市議会についての質問にお答えします。

まず、市議会は国会の衆議院、参議院のように分かっているのかという質問です。彦根市の議会は分かれています。「国会に衆議院、参議院を置く」ことは憲法にはっきりと書かれています、市町村の議会のことについては、地方自治を進めるための基本となる地方自治法という法律にも、「地方公共団体に議会を置く」としか書かれています。日本では、国会のように二つの議会の置く二院制をとっている市議会はありませぬ。

次に、議長の仕事ですが、議会では市議会がスムーズに進むように進行役を務めます。また、議長は対外的にも議会を代表し、いろいろな行事や会議に出席したり、あいさつをしたりします。議長には、議会の仕事をしっかりと運営するための責任と権限が与えられています、他の議員と比べて優遇されるなどの特権は与えられていません。また、議長が

病気のと看や議会に出られないときなどには、副議長が議長の仕事を代わりにします。議長も副議長も、議員の中から選挙で選ばれます。

3番目に、市議会での物事の決定の方法は、採決とって多数決で決定します。賛成の意見が多ければ必ず賛成になりますが、市議会に提出される議題は市民の生活に大きな影響を与えるものばかりですから、議員は議題に対して疑問に思ふことを聞いたり、より詳しく説明を求めたり、また会議で他の議員の考え方を聞いたりしながら、場合によっては将来への影響も考えながら、慎重に賛成、反対の態度を決めて多数決に臨みます。

最後に、彦根市での合併のことですが、現在のところ、合併の話はありません。ただし、昨年の9月の市議会で、市長から、彦根市と周辺の愛荘町、豊郷町、甲良町、多賀町が一緒になって、医療を初め、福祉、教育、産業振興、公共交通などにかかわる住民の生活に身近な仕事について、この1市4町が協力・連携をしながら仕事を進めるために、定住自立圏形成協定という約束をしたいとの提案があり、市議会としてはこれに賛成をしました。

以上でございます。

第2グループ議長(辻 貴子さん) 10番。

10番(宇佐美壮平さん) ありがとうございます。

以上で僕の質問を終わります。

第2グループ議長(辻 貴子さん) 11番白木彩音さん。11番。

11番(白木彩音さん) 私は、風力発電について提案します。

彦根市は、琵琶湖に面している場所があります。琵琶湖沿いは風が強いので、その風を利用して、何かエコに役立てることはないかと思いました。

そこで、風を利用した風力発電や波を利用した発電所をつくってはどうかと考えました。私たちの住むまちの電気を自然の力でつくることができたら、これにまさるエコはないと思います。琵琶湖をみんなの遊び場にするだけでなく、みんなのために役に立ち、琵琶湖をみんなで守っていくということができたら、素晴らしいと思います。

だから、私は、琵琶湖沿いに風車を建てることや波を利用する発電所をつくることを提案します。

第2グループ議長(辻 貴子さん) 市民環境部長。

市民環境部長(東 幸子さん) 白木さんのご提案にお答えいたします。

地球温暖化が問題となっている現在、風力や太陽光などの環境に優しい自然エネルギーを利用することは、地球環境に対して大変よいことだと思います。

彦根市の施設には風力発電施設はありませんが、太陽光発電施設は市立病院や旭森小学校などに設置しています。これから、全部の小学校と中学校に太陽光発電施設を設置する工事を始めていきます。

また、市の施設だけでなく、一般の家庭でも太陽光発電を利用させていただくため、設置費用の一部を助成する制度を平成21年度につくり、85件の申し込みがありました。今回の申し込みは終了いたしました。費用の一部を助成する制度は今後も続けていきたい

と考えています。

風力発電については、県内では草津市の水生植物園みずの森などに設置されていますが、非常に強い風が吹いていないとうまく発電することができません。また、波を利用した発電も常に強い波が必要で、普段の琵琶湖の波ではうまく発電することができません。

環境に優しい自然エネルギーには、風の力や水の力などいろいろなものがありますので、地域に合っているかどうか、長所短所をしっかりと見極めていきたいと思えます。

エコの取り組みは、だれかがすればよいというものではありません。自分の問題として考え、自分にできることを行動してもらうことが大切です。これからもエコ活動について、皆さんと一緒に取り組みを進めていきたいと考えています。

以上です。

第2グループ議長（辻 貴子さん） 11番。

11番（白木彩音さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

第2グループ議長（辻 貴子さん） 28番小松翔さん。28番。

28番（小松 翔さん） 僕は、学校の施設について提案します。

僕たちの校舎が木造だったらいいと思っています。そして、運動場は芝生で、楽しく遊べる遊具がたくさんあるといいです。それに、運動場や学校にみんなが来られるように、校舎やその周りをバリアフリーにしてほしいです。

木造の校舎は温かさを感じられるし、落ち着いて勉強ができそうです。運動場は風が吹くと砂ぼこりが立つし、転ぶと痛いので、芝生だと思い切り走って転んでも痛くないのでうれしいです。それに、みんなが下校してからもまた学校にやってきて、楽しく遊べるように遊具をたくさん置いてほしいです。町内のだれもが散歩できるようにバリアフリーにして、公園のような学校になると思えます。

第2グループ議長（辻 貴子さん） 教育部長。

教育部長（小財久仁夫さん） お答えいたします。

小松さんがおっしゃるように、木造の校舎には温かみがあって、落ち着いて快適に学習できると感じる人も多いと思えます。

学校を建てるには大変多くのお金が必要になります。一度建設すれば、できるだけ長い期間使用できる建物であること、また皆さんが安全に安心して気持ちよく学習してもらえそうな建物であることが大切です。そのためには、火に強く、地震にも強く、丈夫な建物であること、また建設コストのことを考える必要があります。学校に限らず、他の公共施設などの多くの建物は、木造に比べてそれらの点において優れた鉄筋コンクリートなどで造られています。

彦根市で、この十数年間に建築した若葉小学校や城陽小学校、旭森小学校などの新しい校舎も鉄筋コンクリートの校舎ですが、児童の皆さんに木の持つ優しさや温かさを感じてもらえるように、床や壁などの内装にできる限り木材を使用するなどの工夫をしています。

これからも、安全で長い期間使用できる建物を建てるとともに、木のぬくもりを感じられる校舎の整備に努めていきたいと考えています。

次に、運動場の芝生化についてですけれども、運動場が芝生であれば、砂ぼこりも飛びにくく、けがもしにくく、思い切り走ったりできると思います。しかし、運動場全体を芝生にすると、競技によってはかえって使いにくくなったりすること、また体育の授業や休み時間、あるいはスポーツ少年団の使用などによって傷んだ芝生を直したり、水やりや草刈り、肥料まきなど、緑の芝生を枯らさないように保っていくための苦労も伴うということも考えておく必要があります。

なお、現在、鳥居本中学校の運動場の芝生化に取り組んでいますが、鳥居本中学校は以前から水はけが悪く、改修したいと考えていましたが、多くの費用を必要とし、なかなか実現できませんでした。しかし、芝生化することによって、今までの補助金に加えて、今年度に限ってさらに多くの補助金がもらえる国の制度ができましたことから、学校とも相談し、運動場の改修工事とあわせて行うものです。

鳥居本中学校以外の学校のグラウンドについては、芝生の世話や費用、使い方の問題もありますので、初めての試みとなる鳥居本中学校のグラウンドの芝生の成長の様子や芝生化によるさまざまな活動の状況などをよく観察して、今後のグラウンドの芝生化について考えていきたいと思います。

遊具については、現在、市内の17小学校には全部で160台あり、平均すると、1校当たり10台になります。この遊具を、事故が起きないように、皆さんに安全に使ってもらうために、点検や修理、新しいものへの取り替えなどを行っています。遊具をさらに増やすことは、費用や学校によってはグラウンドの広さとの関係から難しいですが、今後も皆さんの学習や体力づくりなどに利用してもらいたいと考えています。

次に、学校のバリアフリー化ですが、平田小学校には、出入り口のスロープや車いす用のトイレがありますので、車いす利用者を初め、地域の方が支障なく学校に来ていただけるように整備しております。地域の皆さんには、学校開放で体育館や運動場などの施設を利用していただいておりますが、今後もさらに訪れやすい学校となるように、施設の整備に努めていきたいと思います。

以上です。

第2グループ議長（辻 貴子さん） 28番。

28番（小松 翔さん） ありがとうございます。

これで僕の質問を終わります。

第2グループ議長（辻 貴子さん） 19番藤野拓馬さん。19番。

19番（藤野拓馬さん） 僕は、新しいグラウンドについて提案します。

彦根市には、広い土のグラウンドはありますが、芝生のグラウンドはありません。僕はサッカーを習っています。Jリーグでは芝生の上で試合をしているので、彦根市にも芝生の上でサッカーができるグラウンドが欲しいと思いました。

僕は何回か芝生の上でプレーしたことがあります。そのときはけがをする心配がないので、思い切りプレーすることができました。また、ボールコントロールもしやすく、とても楽しかったです。小学校の運動場が芝生になれば、サッカーだけでなく、いろんなスポーツが安全になるに違いありません。

だから、彦根市に新しい芝生のグラウンドをつくることを提案します。

第2グループ議長（辻 貴子さん） 教育部長。

教育部長（小財久仁夫さん） お答えいたします。

藤野さんの芝生のグラウンドについての質問ですが、藤野さんがおっしゃるように、グラウンドが芝生であれば、サッカーをするとき、ボールコントロールがしやすかったり、けがもしにくく、思い切りプレーすることができると思います。しかし、グラウンド全体を芝生にすると、サッカー以外のスポーツ、例えば野球やソフトボール、あるいは陸上のトラック競技などの場合は、かえって使いにくくなるということも考えなければなりません。

また、学校のグラウンドのように、体育の授業や休み時間、また土日のスポーツ少年団の使用など、皆さんが毎日使用するグラウンドの場合は芝生の傷みも激しく、傷んだところを直したり、水やりや草刈り、肥料まきなど、緑の芝生をずっと枯らさないように保っていくための苦勞も伴うということも考えておく必要があります。

なお、現在、彦根市では、鳥居本中学校のグラウンドの芝生化に取り組んでいます。鳥居本中学校は以前からグラウンドの水はけが大変悪くて、雨が降った後は何日もぬかるんだ状態が続き、そのため雑草が生えやすく、学校の先生や生徒、保護者が年に何回も草刈りをしなければ運動会ができないほどでした。その問題を何とか改善できないかと考えていましたが、改修するには多くの費用が必要になることから、なかなか実現できませんでした。しかし、今回、芝生化することによって、今までの補助金に加えて、今年度に限りさらに多くの補助金がもらえる国の制度ができましたことから、学校ともよく相談して、問題であったグラウンドの改修工事とあわせて、芝生のグラウンドにすることにしました。

鳥居本中学校以外の学校のグラウンドについては、先ほどもお答えしましたように、芝生の世話や費用、使い方の問題もありますので、初めての試みとなる鳥居本中学校グラウンドの芝生の成長の様子や、芝生化によるさまざまな活動の状況などをよく観察して、今後のグラウンドの芝生化について考えていきたいと思います。

以上です。

第2グループ議長（辻 貴子さん） 19番。

19番（藤野拓馬さん） ありがとうございます。

これで僕の質問を終わります。

第2グループ議長（辻 貴子さん） 16番角田凌さん。16番。

16番（角田 凌さん） 僕は、彦根市周辺の観光について質問します。

彦根城周辺などでは、土曜日、日曜日や花見シーズンになると、観光客でにぎわってい

ます。しかし、大変混雑するため、かなり迷惑されていると思います。僕もそう思うことがありました。そこで、市は何か対策されているのかと思いました。

その理由としては、観光ということも大事だけれど、混雑して、観光客はあっちの方に行きたいけれど、観光目的ではない人は違うところに行きたいのに、混雑に巻き込まれて、イライラして、事故などになると、また渋滞してしまうという悪循環が起こることになってしまいます。僕は、彦根城周辺などに、もっと案内人を配置するなどと考えていますが、どうですか。そうするとスムーズに近づくかと思います。

では、どんなことが行われているのかを教えてください。

第2グループ議長（辻 貴子さん） 産業部長。

産業部長（竹内 彰さん） 交通混雑をなくすための工夫についてお答えいたします。

彦根市では、混雑が予想される観光シーズンや大きなイベントの前には、イベント主催者や彦根警察署と、交通事故防止や車の誘導などについて話し合っています。

ご意見をいただきました彦根城周辺の道路を一方通行にして規制することについては、交通混雑を解消するための一つのよい方法だとは思いますが、交通規制の権限は警察にあることから、市の思いだけで行うことはできません。彦根警察署とは話し合いの中でも検討してきましたが、現状では、彦根城周辺には迂回できる道路が少ないことや、普段、生活道路として利用されている人にも規制の影響が大きく及ぶことから、現在のところ、一方通行は難しいと判断されています。

なお、彦根城桜まつりやゆるキャラまつりなどの大きなイベントがあるときは、歩行者の安全を考えて、彦根警察署にお願いし、彦根城内の道路を一部車両通行禁止にしていたいただいております。

また、駐車場の不足対策として、彦根商工会議所や彦根総合運動場などの駐車場をお借りし、臨時駐車場として案内するとともに、彦根城から離れた駐車場とはシャトルバスで送迎するなど、交通混雑を解消するためのさまざまな試みを行っています。

しかしながら、最近では、高速道路料金割引制度の影響もあって、車で来られる方が増えており、依然、交通混雑が起こりやすい状態になっています。このため、今後、電車などの公共交通機関を利用する人を増やすための取り組みをさらに強化していくことで、交通混雑の解消に努めたいと考えています。

以上です。

第2グループ議長（辻 貴子さん） 16番。

16番（角田 凌さん） 以上で僕の質問を終わります。

第2グループ議長（辻 貴子さん） 26番岡智康さん。26番。

26番（岡 智康さん） 僕は、彦根の歴史をみんなが楽しく学べる方法について提案します。

この方法として、彦根の歴史が書かれている『彦根市史』の漫画版をつくったらよいと思います。

僕はよく図書室に行くのですが、そこで見る限り、『彦根市史』を読んでいる人を見たことがありません。僕が読んでみても、最初の写真は興味深いのですが、そのあとは文章が多くて、小学生には少し難しいようです。だから、この本の漫画版をつくれれば、小学生だけでなく大人もこれを読んで、彦根の歴史をよく知ることができるのではないのでしょうか。図書室にある歴史の漫画版はぼろぼろになるまでよく読まれていて、三国志や日本の歴史などをおもしろく知ることができます。

『彦根市史』の漫画版をつくれれば、みんなが彦根の歴史を楽しみながら学ぶことができると思います。

第2グループ議長（辻 貴子さん） 文化財部長。

文化財部長（松岡一男さん） 彦根市が編さんしております『新修彦根市史』は全12巻で、現在まで8巻発行しております。平成24年度までに残りの4巻を発行する予定です。これまでに発行いたしました市史は、文字も多く、難しくてボリュームもありますけれども、彦根の歴史や文化などを正確に記録し、将来に伝えていくためにも必ず必要なものです。来年度に発行する『彦根市史』の景観編は、昨年皆さんが「わたしのまちを描く絵画コンクール」で応募してくださった風景画や彦根の風景や古い建物を写真などで紹介しますので、今までより親しみやすくなると思っております。

さて、ご質問の彦根市の歴史の漫画本ということですが、今までに英語と日本語で説明いたしました「マンガ彦根の歴史」という冊子を作成いたしまして、主に市役所を訪問されました外国人に配布してきております。これには、石田三成の佐和山城から1987年の世界古城博覧会までの内容をわかりやすく漫画を使って説明しておりますけれども、国宝・彦根城築城400年祭や井伊直弼と開国150年祭など、最近の出来事までは掲載しておりません。そのため、今後、これをもとに新しく彦根市の行事等を追加して、「マンガ彦根の歴史」日本語版を発行するよう検討していきたいと思っております。彦根市民が親しみを持って楽しく読んでいただける本をつくるようにしていきたいと思っております。

なお、今までにも彦根城博物館では、「子どもはくぶつかん教室」、「直政・直孝物語」、「井伊直弼ってどんな人？」というような小冊子、あるいは昨年、「直弼かるた」というものを作成しております。これは彦根の歴史とか人物を、漫画やイラストを使って、詳しく、わかりやすく説明しております。皆さんの小・中学校にも配布しておりますので、ぜひごらんいただきたいと思っております。

以上です。

第2グループ議長（辻 貴子さん） 26番。

26番（岡 智康さん） ありがとうございます。

これで僕の質問を終わります。

第2グループ議長（辻 貴子さん） 12番飯島悠太さん。12番。

12番（飯島悠太さん） 僕は、通学路の安全性について提案します。

彦根の小学校では、毎朝、集団登校で学校に通っています。その際に、地区で決められ



た通学路を通っていきます。僕が通っている通学路は、朝、交通量が多いにもかかわらず道が狭いので、いつも車が僕たちの体をすれすれに通っていきます。そのために、事故が2度ほどありました。幸い、大したけがにはなっていませんが、それを聞いた僕はぞっとしました。恐らくみんな同じ思いで登下校していると思います。僕は登校班長をしているので、なおさらみんなの安全が心配になります。

今は、ポールを白線に沿って立てていただいておりますが、それでも車と接触しそうになります。道路を拡張するのは難しいと思いますが、用水路の上を通れるようにするなど、対策を立てていただくようにお願いします。また、このような危ない通学路がほかにもあると思うので、ぜひ一度視察をして、通学路の安全性を検討していただきたいと思います。

第2グループ議長（辻 貴子さん） 教育長。

教育長（小田柿幸男さん） 通学路の安全性についての提案にお答えいたします。

飯島さんが指摘された通学路は、以前より、地元金城学区の保護者の方や自治会等の組織を通じて、その区間の安全対策について要望・意見をいただき、具体的に、中地区公民館から金城幼稚園までの区間の農道を通学路とできないか、現在の歩行スペースをもう少し広く確保できないか、また通学時間帯を一方通行にできないか、さらに、迂回して住宅の中を通るような通学路に変更できないかなどについて、現地の状況を直接確認しながら、学校や関係の自治会や市役所の道路河川課、交通対策課、さらに彦根警察署などとも話し合ってきましたが、それぞれに課題があって改善に至りませんでした。

提案のあった用水路の上を通れるようにすることについても検討いたしました。用水路の構造上の問題や費用の負担、また農業用水として利用していることなど課題が大きく、実現することはできませんでした。

安全対策の一つの方法として、平成19年5月には、子どもたちの歩行スペースをそれ以前より30センチメートルほどですが幅を広げた上で、車道との間にゴム製のポールを設置しました。結果として、このポールがあるため、ドライバーはスピードを落とし、歩行者に注意を払いながら自動車を運転することとなり、効果があったものと聞いています。

しかしながら、道路が狭いことには変わりなく、皆さんが安全に通学できるように、多くのスクールガード等の地元ボランティアの方々が、毎日、登下校の時間に見守ってくださっていますが、引き続き、安全な通学ができるために、関係課と改善に向け話し合っていきます。

次に、ほかの通学路についても道路を管理する部署が確認するのはもちろんですが、各小学校においても定期的に通学路を点検しています。教育委員会と各学校が連携して、通学路の状況を十分確認し、課題があれば道路河川課などの関係する部署と話し合っ、できる限り改善するように努めてまいります。

最後に、飯島さんが登校班長として、登校班の人たちを安全に学校まで導いてくれていることに大変感謝します。今後も引き続き、下級生の模範となって、交通ルールを守ることの大切さについて指導してくれることを期待しております。

以上でございます。

第2グループ議長（辻 貴子さん） 12番。

12番（飯島悠太さん） ありがとうございます。

これで僕の質問を終わります。

第2グループ議長（辻 貴子さん） 3番吉岡あや音さん。3番。

3番（吉岡あや音さん） 私は、お店の照明について提案します。

私の住む家の周囲は、夜でも空が明るく、星が見えません。なぜなら、近くにあるお店の照明が空を明るく照らしているからです。そこで、その光を弱めたり、照明を当てる範囲を変えてみたりする対策や工夫があったら、地域の方は喜ぶと思います。

なぜ私がこのようなことを思ったかという、ある日、夜空を見て星座を探そうとしたら、空が明る過ぎて大きな星しか見えませんでした。強い照明を出しているお店にとっては、その光が店の看板を照らすことで宣伝になるのだと思いますが、もう少し環境のことを考えるといいのではないかと思ったからです。

対策や工夫として、例えばそのお店の看板だけを光らせて、むだな光を抑える方法。また、時間によって、深夜は照明を落としたり、人通りの多いときは歩道を照らしたらいいのではないかと考えました。

だから、私は、お店の照明について提案します。

第2グループ議長（辻 貴子さん） 市民環境部長。

市民環境部長（東 幸子さん） 吉岡さんのご提案にお答えいたします。

彦根市では、一部の地域において、広告の照明は光の点滅のないものとするなど、基準を設けて、設置者に協力をお願いしております。ただ、市の全部ではありませんので、吉岡さんのおっしゃるとおり、星の見にくいところもあると思います。星座の勉強をするときなどは、たくさんの星が見えた方がいいですし、星がきれいに見える気持ちも明るくなります。

お店の看板は、お客さんに来てもらうためのものですから、遠くから見えた方がいいのですが、強過ぎる照明やむだな光は控えることが必要だと思います。お店でも照明には費用がかかりますので、営業時間が終わればほとんどは消されているようです。

また、6月の環境月間に合わせて、環境省で不要な照明を消すライトダウンキャンペーン期間が設定されていて、市では、施設の電気を早く消したり、事業所の方々にも協力をお願いしています。

看板を照らす光をつくるために、石油などの燃料が使われていることから、むだな照明を減らすことは地球温暖化の防止にも役立ちます。地球温暖化防止の取り組みは、だれかがすればよいということではなく、一人ひとりが自分の責任であると感じ、不要な照明は消すなど、自分の身近なところから行動していくことが大切だと考えています。

以上です。

第2グループ議長（辻 貴子さん） 3番。

3 番（吉岡あや音さん）            ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

第 2 グループ議長（辻 貴子さん）            20 番安居佑馬さん。20 番。

20 番（安居佑馬さん）            僕は、本校のわんぱく池の整備についての提案をします。

本校では、わんぱく池に魚がいます。ですが、今になっては、その池の中にバクテリアが繁殖して、魚がすめない環境にあります。さらに、掃除をしても、バクテリアが繁殖します。だから、魚を飼えるように、わんぱく池の整備を考えました。

僕が 1 年生のときは、わんぱく池には魚がたくさんいました。とてもきれいでした。しかし、今になっては大変きたなくて、臭くなってきています。さらに、エアポンプがなくて、水に空気が送れないので、絶対と言っていいほど、魚が飼えません。だから、池の深さを変えて、魚専用のエアポンプや池専用のフィルターなどをつけて、本校の池をきれいに整備してください。

第 2 グループ議長（辻 貴子さん）            教育長。

教育長（小田柿幸男さん）            稲枝西小学校にあるわんぱく池は、昭和 63 年度卒業記念としてつくられた人工池で、当時は、生活科の学習で、低学年の子どもたちが池の中に入り、水辺の生き物の観察などに使っていました。安居さんがこの池を大切に思い、魚のすめるきれいな池として守っていきたいという願いやその提案は、大変すばらしいものだと受けとめています。

しかし、この池の特徴として、低学年の子どもたちが池の中に入っても安全なように、池の水位を浅く設計してあります。このような構造なので、夏場には急激に水温が上がることや水が循環しないことにより、魚を長く飼うには適さない環境なのです。この池がつくられたころは、子どもたちがとってきた魚やザリガニなどをわんぱく池に入れ、最初は元気に泳ぐ様子も見られたのですが、日にちがたつと弱って死んでしまうことが多かったそうです。

学校では、この池をまず皆さんの力できれいに清掃して、水生植物、例えばホテアオイ等を植えるなどして、再生活動に取り組んでいこうと考えておられますが、安居さんの提案にもありましたように、魚がすめるわんぱく池にするには、池の底を深くし、水が循環するなどの構造に造り替える必要があります。しかし、この池は、低学年の子どもたちが生活科の学習や活動をすることができるようにしてあげたいとの、その当時の卒業生や保護者、学校の先生方の思いや願いのこもった池でありますので、今後このわんぱく池をどのように活用するかについては、十分話し合い、造り替えるかどうかを決めていきます。

安居さんが提案してくれたことは、身近な環境を見直すという点でとても大切なことだと思います。学校のみinnで池の再生を考えることをきっかけに、自分たちで自然環境を守れる大人になってくれることを願っております。

以上です。

第 2 グループ議長（辻 貴子さん）            20 番。

20番（安居佑馬さん）            ありがとうございます。

これで僕の提案を終わります。

第2グループ議長（辻 貴子さん）            6番清長遼太さん。6番。

6番（清長遼太さん）            僕は、彦根に観光に訪れた人が地域の人と交流できるイベントを増やすことを提案します。

彦根には、彦根城など、歴史のある建物がたくさんあります。お城まつりなど、彦根の歴史にかかわるイベントがありますが、もっと市内の子どもやほかの地域から観光に訪れた人が彦根の歴史や文化について交流できるイベントを増やしたらいいと思います。

例えば、地域の人に彦根の歴史、佐和山城、鳥居本宿などについてのクイズを募って、クイズ大会をすれば、地域の方は彦根のよさを見つめ直すきっかけになるし、観光に訪れた人は楽しくクイズを解きながら彦根について知ることできるからです。人気の高いひこにゃんもイベントに登場してもらったらいいと思います。彦根を訪れた人が、イベントに参加して楽しかったり、勉強になったりしたと思ったら、再び彦根を訪れてくれると思うからです。

だから、彦根を訪れた人が地域と交流できるイベントを増やすことを提案します。

第2グループ議長（辻 貴子さん）            産業部長。

産業部長（竹内 彰さん）            彦根には、彦根城を初めとして多くの観光スポットがあり、またイベントとしては、桜まつり、彦根大花火大会、彦根ばやし総おどり大会など、数多くあります。また、全国のキャラクターが一堂に会したゆるキャラまつりにも多くの観光客においでいただいております。参加型としましては、夏のゆかたまつりや秋の城まつりシーズンのかんたん変身体験とお姫さま変身体験などがあります。

一方、民間においても、花しょうぶ通り商店街を初め、多くの市民団体が楽しい参加型イベントを実施され、市民や観光客が交流されております。昨年7月には、宮田町の佐和山のふもとで、佐和山城遺跡発掘調査現地説明会が開催され、学術関係者のほか、多くの歴史ファンが参加されていますが、このようなものも体験型学習イベントの一つであると考えられます。今月からは、彦根観光協会が彦根仏壇の伝統技術を体験できる「ほんまもん体験教室」をスタートさせていますが、今後も市民や観光客に参加していただけるイベントを考えていきたいと思っております。

また、クイズ大会をしてはとのご提案ですが、クイズを解きながら市民や観光客に彦根を知っていただくことはよいアイデアだと思います。

昨年、鳥人間コンテスト選手権大会が残念ながら中止されましたことから、クイズ形式として「鳥人間検定」を初めて開催しました。問題は彦根の歴史や産業、さらにひこにゃんに関するものなどを解いていただきました。また、彦根商店街連盟が「彦根城下町検定」を実施されておりますが、それぞれ彦根を知っていただく機会になったと考えております。

これからは、見る観光から参加型、体験型、交流型の観光が重要になってくると考えま

すので、市民の皆さんと一緒にさまざまなイベント等のアイデアを考えていきたいと思  
います。

以上です。

第2グループ議長（辻 貴子さん） 6番。

6番（清長遼太さん） ありがとうございます。

これで僕の質問を終わります。

第2グループ議長（辻 貴子さん） 4番堀田航希さん。4番。

4番（堀田航希さん） 僕は、彦根城とその周辺の世界遺産登録について提案します。

彦根城は歴史に大きな役割を果たした文化遺産として世界遺産登録のリストに載り、  
18年もたちました。でも、どうして彦根城は世界遺産登録されないのでしょうか。原因  
の一つとして、城下町にも問題があると思います。

城下町の古いまちなみはどんどん近代的なまちなみに変わってきています。せめて建物  
の外観だけでも残せなかったのでしょうか。そんな新しいまちなみで行う大名行列などの  
行事は似合わないように思います。彦根城は、能や茶道などの大事な日本の文化を世界に  
発信できる大切な建物だと思います。古いまちなみを残すことは、登録を望んでいる市民  
の思いです。

だから、僕は、世界遺産登録を目指すために、これ以上は彦根城周辺に近代的な建物が  
増えないようにすることを提案します。

第2グループ議長（辻 貴子さん） 市長。

市長（獅山向洋さん） 堀田さんの彦根城はなぜ世界遺産にならないのかという質問  
にまずお答えいたします。

彦根城は、平成4年に、姫路城や京都、奈良などとともに世界遺産に推薦する候補を掲  
げた暫定リストに載せてもらいました。そして一番最初に世界遺産になったのは法隆寺で、  
その翌年の平成5年に姫路城が世界文化遺産に登録されたわけです。ただ、姫路城が先に  
登録されたために、同じお城ということで、彦根城は大変遅れてしまったわけです。

そういうことで、同じお城というだけではなかなか世界文化遺産に登録されないだろ  
うと思いましたので、現在、彦根市では、彦根城だけではなくて、彦根城の城下町も一体と  
して、何とかして世界文化遺産に登録してもらおうと努力しているわけです。ところが、  
堀田さんが提案されたように、城下町をこれからどのように整備していくか、保存してい  
くかということが非常に大切なことになってきております。

これは難しい話かもしれませんが、日本とか、アメリカとか、いわゆる資本主義社会と  
いう社会では、私有財産制というものを採用してしまっていて、簡単に言うと、自分の家とか  
土地は自分で自由に使ってよいという制度になっているわけです。国の建築基準法という  
法律で、建物とか、そういうものについては規制がありますし、住宅地域では一定の高さ  
を制限したりするという法律はあるわけですが、どのような建物を建ててもその制限内な  
ら自由なのです。せっかく古い家があっても、その家を取り壊すということは自由なので

す。そういうことで、現在、彦根市においてはどんどん古い家が壊されたり、建築基準法内の建物であれば自由に建てられているという状況にあるわけです。

しかし、このようなことでは古い城下町の風情がどんどん失われていきますので、彦根市におきましては、平成19年に彦根城周辺地域を城下町らしいまちなみにするために、事前に建物の計画を届け出させていただくことにしました。また、建物の高さを制限し、屋根や壁を落ち着いた色にするなど、ルールを定めて、城下町の歴史的な建物と調和するように指導させていただいています。ただ、これもあくまで指導であって、強制することはできません。さらに、平成20年には歴史まちづくり計画というものを定めて、歴史的な資産を活かしたまちづくりを進めていくことにしました。

こんなことで、古いまちなみを残して、世界文化遺産登録を目標にするためには、歴史まちづくりということを市民の皆さんが理解していただいて、また協力していただくことが非常に大切なことなのです。どうか堀田さんも、今後も世界文化遺産登録ということに注目していただきたいと思ひますし、また協力もして下さるよう、よろしくお願ひします。

第2グループ議長(辻 貴子さん) 4番。

4番(堀田航希さん) ありがとうございます。

これで僕の提案を終わります。

第2グループ議長(辻 貴子さん) 8番杉原裕也さん。8番。

8番(杉原裕也さん) 僕は、琵琶湖をきれいにする取り組みについて提案します。

年に3回、滋賀県全体をきれいにするために、ごみゼロの日、琵琶湖の日、県下一斉清掃の日がありますが、まず彦根市で、月に一度、琵琶湖をきれいにする取り組みを行い、それをほかの市や町に勧める取り組みをした方がいいと思ひます。

僕は5年生のとき、総合的な学習の時間に、琵琶湖について調べました。学習を通して、琵琶湖にしかない生き物の数がどんどん減っていることを知りました。それは琵琶湖の水が汚れてきていることが原因です。

そこで、もっと琵琶湖をきれいにしていかないといけないと思ひました。また、琵琶湖の水は滋賀県の人だけではなく、京都や大阪の人使ひます。多くの人使ひ琵琶湖の水がきれいであることを願っていると思ひます。

だから、月に一度、琵琶湖をきれいにする取り組みをすることを提案します。

第2グループ議長(辻 貴子さん) 市民環境部長。

市民環境部長(東 幸子さん) 杉原さんご提案にお答えいたします。

1977年5月、琵琶湖に淡水赤潮が発生し、県民が合成洗剤の使用をやめ、粉石けんを使おうという運動が始まりました。これを石けん運動と言ひます。琵琶湖を守ろうとする人たちを中心に運動は広がり、「滋賀県琵琶湖の富栄養化の防止に関する条例」ができました。琵琶湖の水質は少しずつきれいになっていますが、1960年代より以前のきれいな琵琶湖には戻っていません。

彦根市では、年に3回、琵琶湖周辺の清掃活動を行っていますが、活動は土曜、日曜で、皆さんにお休みの日に出ていただくことなどから、月に1回の清掃は難しい状況です。清掃については、市が実施する活動以外に、地元の自治会でも行われています。また、事業所の方などがグループをつくって清掃されているところもあります。

市では、清掃も大事と考えておりますが、ごみを捨てないことも大事であり、ポイ捨てを禁止した「彦根市ごみの散乱およびふん害のない美しいまちづくり条例」を制定したり、不法投棄の監視員制度をつくり、市内の見回りを行っています。

琵琶湖をきれいにするためには、皆さんの身近に流れる川の水をきれいにするのが大切です。市では、下水道の整備を進めたり、合併処理浄化槽の設置を推進して、家庭から出る生活排水をきれいにしてから川へ流し、琵琶湖を守る取り組みをしています。また、定期的に彦根市内の主要な河川の水質検査や身近な川の水質検査も実施しており、川が汚されないか監視しています。

杉原さんのおっしゃるとおり、琵琶湖の水は京都や大阪の人にも使われています。上流にいる彦根市民は、川の水を汚さないように努力しなければなりません。家庭から出る生活排水をきれいにする以外でも、ごみのポイ捨てをしないなど、自分のできることは何かを考え、皆さんと一緒に琵琶湖をきれいにするための取り組みを進めていきたいと考えています。

以上です。

第2グループ議長（辻 貴子さん） 8番。

8番（杉原裕也さん） ありがとうございます。

これで僕の質問を終わります。

第2グループ議長（辻 貴子さん） しばらくの間休憩します。

午前11時05分休憩

午前11時14分再開

第3グループ議長（谷口深琴さん） 議長を交替しました。若葉小学校の谷口深琴です。よろしく申し上げます。

休憩の前に続いて、会議を開きます。

第3グループの順番は、31番岡本和路さん、17番岡田衣咲さん、22番藤本ひかるさん、21番辻貴子さん、2番高橋勇貴さん、5番鹿島沙也香さん、7番小倉倭人さん、13番中村公哉さん、25番清水奈月さん、24番田辺雪瑛さんの順とし、順番に第2演壇まで来て質問をしてください。

31番岡本和路さん。31番。

31番（岡本和路さん） 僕は、新型インフルエンザ対策について質問します。

彦根市の市役所の危機管理室では、新型インフルエンザ関係の学級閉鎖の情報を携帯電話やパソコンのEメールに送っています。新型インフルエンザは、初め、子どもに多く流

行していましたが、少しずつ大人たちにも増えてきたとテレビのニュースで言っていました。彦根市はメールを送ることのほかに、どんな取り組みをしているか、教えてください。

それと、昔は学校でインフルエンザの予防接種をしていたと母から聞きました。学校で予防接種をする方が、一度にたくさん子どもたちが受けられます。ワクチンを大量生産しやすい大きな容器のワクチンを使うことができ、何日も待たないで済むと思います。学校で予防接種をすることはできませんか、お答えください。

第3グループ議長（谷口深琴さん） 総務部危機管理監。

総務部危機管理監（横井康素さん） 彦根市の新型インフルエンザ対策についてお答えします。

新型インフルエンザに関する情報は、岡本さんもお存じのように、携帯電話やパソコンへメール配信するほか、「広報ひこね」や市のホームページ、ラジオのエフエムひこねを活用し、できるだけ早く最新の情報を市民の皆さんにお伝えしています。去年の10月には、各家庭に1部ずつパンフレットを配布し、新型インフルエンザの予防対策などについてお知らせしました。

また、ビバシティ彦根での「新型インフルエンザ講演会」を初め、各地区公民館、支所、出張所での「新型インフルエンザパネル展」を開催したところです。さらに、皆さんが住んでいる地域に出向いて、新型インフルエンザに関する出前講座も行っています。

新型インフルエンザの予防は、手洗い、うがい、せきエチケットが基本です。市民の皆さん一人ひとりに新型インフルエンザの正しい知識を持っていただき、感染防止に役立っていただければと考えています。

第3グループ議長（谷口深琴さん） 福祉保健部長。

福祉保健部長（成宮博和さん） 私の方から、学校での予防接種につきましてお答え申し上げます。

今回の新型インフルエンザは、今までに流行していないウイルスによるインフルエンザで、だれもが免疫という病気に対する抵抗力を持っておりませんので、かかりやすく大流行しやすい病気です。昨年、皆さんの学校でも学級閉鎖が相次ぎました。ことしになってから、新型インフルエンザにかかる人もやや少なくなってまいりましたが、まだまだ油断せずに、手洗いやうがい、マスクをするなど、かからないように気をつけていただきたいと思います。

予防接種は、病気にかかりにくくしたり、かかっても症状が重くならないようにするものですけれども、たまに副反応といいまして、ワクチンが体に悪い影響をもたらす場合があります。接種する前に体調やアレルギーの有無などについて十分お医者さんが聞き取り、健康状態を確認していただいてから行う必要があります。このため、昔は学校で集団接種をしていたこともございましたけれども、より安全に接種していただくため、原則的に体の調子がよくわかっているかかりつけのお医者さんで予防接種を受けるように勧めてまいりました。



新型インフルエンザのワクチン接種につきましては、あくまでも任意接種といたしまして、強制的に接種するものではなく、希望される方に接種するものでございますし、また新しいワクチンによってどのような副反応が起こるのかわかりませんので、体調のよいときにお医者さんのもとで接種する方が望ましいということから、学校での集団予防接種は実施しませんでした。一部の医療機関におきましては、ワクチンがむだにならないよう、人数をまとめて接種を実施していただいたところもございます。

現在、ワクチンは十分ございますし、小さな容器のワクチンも供給されまして、むだなく速やかに接種していただけるようになってきておりますので、予防接種を希望される方はかかりつけのお医者さんにご相談いただきたいと思います。

以上です。

第3グループ議長（谷口深琴さん） 31番。

31番（岡本和路さん） ありがとうございます。

これで僕の質問を終わります。

第3グループ議長（谷口深琴さん） 17番岡田衣咲さん。17番。

17番（岡田衣咲さん） 私は、彦根市の生き物に関する取り組みについて提案します。

彦根は、歴史的なことに関してはかなり有名です。ですが、生き物に関することは余り聞きません。生き物に関するイベントなどを行うと、彦根の新たな面をさまざまな人たちにわかってもらえると思うし、環境のことについて考えるチャンスにもなると思います。

他県の人、滋賀県の人など、さまざまな人に彦根の余り知られていない生き物のこと、例えば松原に集まる水鳥たちや彦根にいる絶滅危惧種などを知ってもらい、そこから生き物と人が気持よく生活していくために環境について考え、そこに集まった人たちと交流もできるので、生き物に関するイベントなどをもっと大々的に行ったらいいと思いました。

なので、私は、生き物に関する取り組みについて提案します。

第3グループ議長（谷口深琴さん） 市民環境部長。

市民環境部長（東 幸子さん） 岡田さんのご提案にお答えいたします。

彦根市では、ホタルや水鳥、川の生き物やいろいろな植物など、それらの生き物がたくさん観察できる季節に合わせて、毎年10回の自然観察会を開催しています。観察会は、専門の先生の指導により、生き物とふれあいながら、名前や生態などを教えていただき、身近な自然環境に愛着を持っていただくことを目的としています。

また、彦根市で貴重な動植物、絶滅が心配される種類についてまとめた「彦根市で大切にすべき野生生物 - レッドデータブックひこね - 」を平成17年3月に発行しました。しかし、市内の自然環境やそこに生息する野生生物を取り巻く状況は年を追うごとに刻々と変化していますので、今後も調査を続けていく必要があります。

より便利で快適な暮らしを求めた私たちの生活が、地球温暖化の問題や環境汚染の問題

などを引き起こし、身近な自然環境が失われ、野生生物などに大きな影響を与えています。自然の中ではいろいろな生き物がそれぞれの役割を果たし生きていて、人間もその一部であることもみんなが理解しないといけません。

身近な生き物のことを知り、彦根市の自然を愛していただくことが、彦根の美しい自然環境を未来に引き継いでいくために必要だと考えています。これからも皆さんと一緒に、彦根市の自然とその大切さについて学んでいきたいと考えています。

来月、3月21日の春分の日には、鳥居本地区公民館の周辺で、早春の草花観察会を開催する予定です。この観察会では、早春に芽吹く草花を観察したり、食べられる野草を調理して春の味覚を味わいますので、ぜひ皆さんもご家族の方と一緒に参加していただきたいと思います。

以上です。

第3グループ議長（谷口深琴さん） 17番。

17番（岡田衣咲さん） ありがとうございます。

これで質問を終わります。

第3グループ議長（谷口深琴さん） 22番藤本ひかるさん。22番。

22番（藤本ひかるさん） 私は、障害者への支援について質問します。

彦根市は歴史のあるまちなので、初めからユニバーサルデザインの設計はされていないと思います。そこで、障害者の方の生活の場として、また観光地として、バリアフリー化がどのように行われているのか知りたいと思いました。

私の気づいたところでは、歩道を歩行者と自転車に区分けしたり、観光協会に車いすを置いて貸し出したりと工夫されています。また、図書館には点字による「市議会だより」なども置かれていました。ほかにどのような取り組みがされているのか、教えてください。

次に、災害時における障害者支援ボランティア育成について提案します。

災害が起これば生活が一変します。特に障害者にとっては不安が一層大きくなると思います。それを少しでも解消するために、災害時障害者支援ボランティアを組織し、いざというときにすばやく対応できるようにしておいたらよいのではないかと思います。その育成を提案します。

第3グループ議長（谷口深琴さん） 福祉保健部長。

福祉保健部長（成宮博和さん） お答えいたします。

まず初めに、障害のある人に対するバリアフリー化に関する取り組みについてお答え申し上げます。

彦根市では、平成15年4月に策定しました「彦根市交通バリアフリー基本構想」に基づき、彦根駅および南彦根駅周辺を重点地区として、お年寄りや障害のある人等が駅周辺から公共施設等へ安全かつ快適に移動することができるように、今日まで、県道や市道における点字ブロック設置や歩道の段差解消等のバリアフリー化を進めてまいりました。また、鉄道やバスの公共機関についても、障害のある人に使いやすいものとなるよう、エレ

ベーター等の設置や乗り口の段差を低くした低床バスの活用などをバス会社等をお願いしてきております。

そのほかに、「だれもが住みたくなる福祉滋賀のまちづくり条例」に基づきまして、建物を建てる方への指導や啓発を行っておりまして、一定規模以上の建築物を建てるに当たっては、障害のある方やお年寄りにも配慮したつくり方をしなければならないようになっておりますし、車いすの人も使用できる公衆トイレの整備や古くなった公共施設の建て替えに当たっては、障害のある人だけでなく、すべての人が利用しやすい施設となるよう配慮しながら整備しており、市内でも少しずつですが、バリアフリーに配慮した施設が増えつつあります。

さらに、目の不自由な人のために、「広報ひこね」や「市議会だより」の点字版、音声版を作成したり、聴覚に障害のある人のコミュニケーションの確保のため手話通訳者を派遣したりして、情報のバリアフリーの取り組みもしております。

現在、障害のある人やお年寄り、赤ちゃんを連れた人が利用できる施設がどこにあるかというのを調べて、多くの皆さんにお知らせできるよう、「バリアフリーマップ」の作成にも取り組んでいるところです。だれもが安心してでかけることができるように、今後もいろいろな面でバリアフリーへの取り組みを進めていきたいと思っておりますので、皆さんのご協力をお願いいたします。

次に、災害時障害者支援ボランティアについてのご提案にお答え申し上げます。

大きな災害が発生したときなどには、まずは「自分の安全は自分が守る」という自助の考え方が基本であり、普段から災害の発生に備えておくことが一番大切なことです。また、市を初め、消防、警察、自衛隊などの機関が行う救出活動を公助と言いますけれども、こうした機関が災害発生後、現場に到着するまでには時間がかかることが予想されます。自衛隊やボランティアなど、被災地の外からの応援の到着にはさらに時間がかかります。

平成7年に阪神・淡路大震災が発生し、多くの方が亡くなりましたが、この教訓から、地域の皆さんによる安否確認や避難支援などの支え合いは、まさに生死を分ける重要な支援活動であると言われております。

ですから、災害の発生したときには、まずは自分自身の安全を確認した上で、「私たちのまちは私たちで守る」という共助の考え方に立って、お隣同士や自治会、自主防災組織など地域に住む皆さんが、近くに住む手助けを必要とするお年寄りや障害者の方たちを大丈夫かどうか確認していただき、必要に応じて避難の手助けをするなどの助け合いの行動や活動が大切でございます。

こうしたことから、彦根市では、障害者やお年寄りなど、特に支援を必要とする方に対する取り組みとして、平成20年から「災害時要援護者支援制度」をスタートさせています。この制度は、大きな災害が起こったときに、重度の障害者やひとり暮らしのお年寄りなど、自力で避難することが難しい方たちが、安否の確認や避難所への誘導などの支援を身近な地域の中で受けられるように、前もって登録しておくことにより、同じ地域に住む

人たちがお互いに連絡し、協力し合って支えていこうというもので、共助という考え方に立つものです。

一方、ご提案にあるような災害時におけるボランティアの育成につきましては、市の社会福祉協議会において「災害ボランティア養成講座」を開催し、地域の皆さんが中心になり、災害に強いまちづくりに取り組むためのリーダー的人材の育成に努めており、こうしたボランティアの方々が地域のリーダーとして役割を担っていただける仕組みづくりも必要であると考えております。

いずれにしましても、大きな災害が起こったときには、地域の皆さんが協力し、助け合っていたることが大変重要でございます。手助けが必要な方々に対しては、災害が発生したときだけでなく、普段からの声かけや励まし、見守りなどの活動をしていただくことにより交流を深めていただきまして、だれもが住み慣れた地域で安心して暮らせる支え合いの地域社会の実現を目指して、市民の皆さんと一緒に取り組んでまいりたいと考えております。

以上でございます。

第3グループ議長（谷口深琴さん） 22番。

22番（藤本ひかるさん） 質問に答えてくださって、ありがとうございました。

これで私の質問を終わります。

第3グループ議長（谷口深琴さん） 21番辻貴子さん。21番。

21番（辻 貴子さん） 私は、スクールバスについて提案します。

私たちが住んでいる城陽学区は、自然がとても多く、よいところです。一面に田畑が広がっているところもあります。しかし、城陽学区からはすべてが遠いです。図書館に行くにしても、下水処理場や商店街見学など、どこに行くにしても時間がかかり、交通手段がほとんどありません。駅に行って電車に乗る方法もありますが、駅までの交通も不便です。だから、学校からいろいろな施設の見学や図書館へ行こうとしても、バスが必要です。そのバスも頼んでおかないと来ません。

そこで、私は、スクールバスがあったらいいと思います。スクールバスがあれば、図書館や彦根城、博物館の見学もスクールバスで行くことができ、もっと勉強が楽しくなるのではないかと思います。また、中学の部活でも、市内のほかの中学校に練習試合へ行ったり、陸上競技場や体育館など、いろんなところでの練習もスクールバスがあれば行きやすくなるのではないかと思います。

だから、私は、スクールバスをつくることを提案します。

第3グループ議長（谷口深琴さん） 教育部長。

教育部長（小財久仁夫さん） 辻さんの質問にお答えいたします。

ご提案のとおり、スクールバスがあれば、いろんな施設への見学が今より便利になるとと思いますが、小学校で考えてみますと、バスを使って校外で学習する機会は、6年生の皆さんの場合で、修学旅行やバス遠足、そして陸上記録会やスキー教室など、1年間で4回

です。したがって、一つの学校で1年間にバスを使う機会は、1年生から6年生までを合わせると14回程度になると思われます。

彦根市内には17の小学校と7の中学校がありますが、各校にスクールバスを置こうとすると、バス1台の購入費だけで約1,000万円、さらに運転手さんの給料やバスの燃料代、修理代などの維持経費が毎年1年間で350万円以上必要となってきます。人数の多い学校になると2台以上のバスが必要となり、それらを合わせるとたくさんのお金が必要になります。今お答えしましたように、1年間でバスを使う回数や費用を考えると、たとえば使用回数を数回増やしたとしても、それだけのお金をかけてスクールバスを用意するのは大変もったいないように思います。

現在、皆さんが学校で行う校外学習は、貸し切りバスに乗って出かけるよう学校で手配してもらっていますので、こうした貸し切りバスを利用することで特に不便はないと思います。

辻さんのご提案は、学校の中だけでなく、学校の外でも広く学びを求めているもので、その積極的な姿勢は大変大事なことと思います。これからも校外活動に積極的に参加して、学習を深めたり、広められるように期待をしております。

以上です。

第3グループ議長（谷口深琴さん） 21番。

21番（辻 貴子さん） ありがとうございます。

これで質問を終わります。

第3グループ議長（谷口深琴さん） 2番高橋勇貴さん。2番。

2番（高橋勇貴さん） 僕は、彦根市の自然保護について提案します。

僕は彦根市古沢町に住んでいて、2007年3月に彦根駅東口が開通してから駅周辺の整備が進み、ここあたりも便利になってきました。ところが、今まで僕の周辺に当たり前にあった川や草原が姿を消しつつあります。僕は幼いころから生物が好きで、そんな川や草原に行っては、さまざまな生物を捕まえたり、飼育したりしてきました。その川が3面コンクリート張りになって地下に潜り、草原だったところはコンクリートで舗装され、住宅地に変わりつつあります。もちろんそんな場所では、前まではいたザリガニや魚、バッタなどが全くいなくなってしまう現状も数多く見受けられます。

だから、この彦根でも自然保護を中心に、まちの中でも生物が住める豊かな川や草原、林を少しでもついたり、幼稚園や小学校ではビオトープづくり、ビルやマンションでは屋上緑化などに取り組み、地球温暖化防止などの環境に優しい取り組みをすることによって、人と自然との共生を実現させてくれたらいいと思います。

だから、僕は、彦根市の自然保護について提案します。

第3グループ議長（谷口深琴さん） 市民環境部長。

市民環境部長（東 幸子さん） 高橋さんのご提案にお答えいたします。

地球温暖化の原因は、石油などの燃料の使用による二酸化炭素などの排出であると言わ

れています。しかし、人間が便利で楽しい暮らしを求め、二酸化炭素を吸収する多くの樹木を切り、今なお自然環境を破壊していることが大きな問題だと考えます。そして、そのような自然破壊が遠い海外で起こっていて、自分の生活とは関係がないと思ってしまうことも問題です。私たちが使うティッシュペーパーをつくるのにも、樹木を切らないとつくりえないことを忘れないでいたいものです。

生き物についても顕微鏡で見ないとわからないような微生物がいて、それを小さな魚が食べます。次に、小さな魚を大きな魚が食べ、その魚を人間がとって食べるという流れがあります。人間の行動が、微生物、小さな魚、大きな魚などの生態に大きな影響を与えることも忘れてはならないと思います。

高橋さんの提案にもあるとおり、自然保護が地球温暖化の防止にもつながると考え、彦根市では、彦根市環境基本計画および地域行動計画の中で緑化を推進したり、環境の様子を調べるため、川や空気の汚染がないか定期的に調査し、彦根市の環境状況の把握と情報発信に努めています。また、自然保護の啓発として、川の水質や水辺の環境と深いかわりのあるホテルの調査活動や自然観察会の開催などを実施したり、緑のカーテンの取り組みを進めています。また、学校によっては、身近な河川を利用した勉強会を開催しているところもあります。

そのほか、道路や駐車場の工事については水が地下へしみ込む透水性舗装としたり、川の工事については川の底を全部コンクリート張りにしないなど、環境に配慮した事業を進めています。

人の暮らしが自然と調和するためには、一人ひとりの環境に対する意識を変えていくことが必要だと考えます。自分にできることは何かを考え、皆さんと一緒に地球温暖化防止の取り組みを進めていきたいと考えています。

以上です。

第3グループ議長（谷口深琴さん） 2番。

2番（高橋勇貴さん） ありがとうございます。

これで僕の提案を終わります。

第3グループ議長（谷口深琴さん） 5番鹿島沙也香さん。5番。

5番（鹿島沙也香さん） 私は、彦根のお城まつりパレードについて提案します。

彦根では、お城まつりの中で大名行列を行っています。その中で、昔のいろいろな服を着て歩く風俗行列があります。私は去年参加して、とても楽しかったので、お城まつりのパレードに中学生も参加できたらいいと思いました。

今までの大名行列を見ていて、いつも「いいな」と思っていました。そして私も大名行列に参加できる6年生になり、市女笠をすることができました。でも、これが最初で最後です。少し寂しい気がします。行列に参加して、歴史に興味を持つようになりました。もし来年も参加することができるなら、6年生に先輩としてアドバイスができると思います。そうすることで、次の時代へと大名行列を引き継ぐことができると思います。

だから、大名行列に中学生も参加できるようにすることを提案します。

第3グループ議長（谷口深琴さん） 産業部長。

産業部長（竹内 彰さん） 鹿島さんのご質問にお答えします。

小江戸彦根の城まつりパレードは、毎年11月3日に行っておりますが、昨年で57回目となりました。このパレードには約1,000人が参加し、2時間にわたって時代風俗絵巻を繰り広げており、昨年は約6万人の方々に沿道でごらんいただきました。鹿島さんも昨年、市女笠行列に参加され、またそれを機会に歴史に興味を持たれたようで、大変よい経験をされたと思います。

昨年のパレードは、先導隊から始まり、観光地美化キャンペーン隊、井伊直弼公花の生涯行列、彦根鉄砲隊、子ども大名行列、子ども時代風俗行列、井伊の赤鬼家臣団行列、彦根町火消行列、彦根・横浜友好交流委員会、猿楽ひこね延年風流の各行列で構成されました。鹿島さんに参加いただきました市女笠は、この中の子ども時代風俗行列に含まれていますが、子ども大名行列と子ども時代風俗行列は、市内17小学校の6年生の皆さんを対象に参加者を募集しており、応募者が多いときは抽選で参加者を決定されております。

ご提案いただいております中学生のパレードへの参加につきましては、パレード全体の構成も踏まえて考えなければならないことに加えまして、実際のところ、中学生ともなりますと体格の差も大きくなり、衣装の関係等で難しいと考えますが、鹿島さんのご提案は実行委員会にお伝えしたいと思います。

以上です。

第3グループ議長（谷口深琴さん） 5番。

5番（鹿島沙也香さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

第3グループ議長（谷口深琴さん） 7番小倉倭人さん。7番。

7番（小倉倭人さん） 佐和山城の再建について提案します。

なぜ僕が佐和山城の再建をしたいかというと、今、彦根市では、お城を中心に観光客を集めています。ひこにゃんの人気もすごいです。いしだみつにゃんもいるけれど、肝心なお城がありません。だから、いしだみつにゃんの佐和山城を再建したら、もっとたくさんの人たちが彦根に来てくださると思います。

僕たちは社会科の歴史で戦国時代を勉強したので、ぜひ見てみたいです。僕も1回見てみたいし、観光客がたくさん増えると思うので、佐和山城を再建することを提案します。

第3グループ議長（谷口深琴さん） 松田副市長。

副市長（松田一義さん） お答えします。

平成19年の国宝・彦根城築城400年祭や、現在開催しています井伊直弼と開国150年祭に加え、近年の歴史ブームの影響もありまして、彦根城を初めとして、佐和山城跡にも全国各地からたくさんの観光客が来られています。特に戦国武将の人気の高くなっていることから、石田三成の城であった佐和山城跡を訪れる方々が年々増えてきており、

観光都市彦根として大変喜ばしいことです。

彦根市では、平成16年度から佐和山城跡の測量調査を行っていきまして、その結果、城跡の状態が予想以上によく残っていることがわかってきました。そうしたことから、今後、佐和山城跡の全体の様子を解明して、彦根城と同じように国の文化財指定を目指していきたいと考えています。

ご提案の佐和山城再建ですが、今申し上げましたように、佐和山城跡は重要な遺跡であるため、正確な復元が求められます。ところが、建物の図面など正確な資料がほとんど残っていないため、佐和山城を再建することは難しいと考えています。国の文化財に指定されている安土城跡や小谷城跡なども同じで、どちらも再建されていません。彦根には彦根城を初めとしていろいろな本物があり、そのよさを広くPRして多くの観光客をお迎えしています。佐和山城は再建するのではなく、むしろ現状の城跡を城跡としてしっかりと整備して守っていくことが大切だと考えています。佐和山城の再建は、私たちの頭の中でさまざまに思い浮かべて、想像での再建をしてみてもいいのでしょうか。

以上です。

第3グループ議長（谷口深琴さん） 7番。

7番（小倉倭人さん） 以上で僕の提案を終わります。

第3グループ議長（谷口深琴さん） 13番中村公哉さん。13番。

13番（中村公哉さん） 僕は、田んぼや畑を埋めて家ばかりを建てるのではなく、老人ホームや総合病院をたくさん作り、医者を増やすことについて提案します。

彦根市は、医者不足であり、病気で困っている人が多いので、総合病院と医者を増やした方がいいと思います。また、老人ホームが少なく、入るときにたくさんのお金が必要、入りたくても入れない人が多いので、みんなが払っている税金で少しでも老人ホームに入るお金を減らした方がいいと思います。また、入りたくても人数が多くて入れないこともあるので、老人ホームを増やしてほしいです。

だから、総合病院と医者を増やし、老人ホームに入るお金を少しでも減らすことについて提案します。

第3グループ議長（谷口深琴さん） 福祉保健部長。

福祉保健部長（成宮博和さん） お答えいたします。

彦根市内には、彦根市立病院、彦根中央病院、友仁山崎病院と、既に三つの総合病院があります。総合病院をつくるためには、病院の建物を建てるだけでなく、高度な検査ができる機械や、診察や病気の治療をするための多くの機材を揃えたりするのにたくさんのお金がかかり、新たに総合病院を建設するということは大変困難なことです。

また、病院で働くお医者さんや看護師さん、その他多くの職員が必要ですが、現状では、彦根だけでなく全国ほとんどの病院においてお医者さんや看護師さんが少なくなり、困っている状況があります。そこで、大学病院などにおられるお医者さんを彦根の病院に派遣していただくようお願いしたり、病院で働くお医者さんが増えるような対策の検討もし



ておりますけれども、お医者さんを派遣していただくことやすくにお医者さんを増やすということは大変難しい状況でもございます。

しかし、市内には身近なかかりつけのお医者さんのおられる診療所が60カ所余りありますので、こうした診療所と病院との連携などにより、市民の皆さんが安心していただけるような医療体制の充実を目指して努力していきたいと考えております。

次に、老人ホームのことについてお答えいたします。

彦根市でも65歳以上のお年寄りが増えて、市民の5人に1人は65歳以上の方となっています。その中には、寝たきりなどにより施設での介護が必要なお年寄りも増えていることから、老人ホームが不足しているのが現状です。老人ホームなどの施設を建設するにはたくさんのお金が必要ですので一気にはできませんから、計画的に施設を建てて、入っただけの人の数を増やすことにも取り組んでおります。

また、老人ホームに入所していただきますと、施設での生活費のほか、介護の度合いによりましてたくさんのお金が必要となります。このため、皆さんが保険料を払ってお年寄りを支える介護保険という制度があり、この保険からのお金や税金を有効に使い、利用される方の支払いの負担を軽くする仕組みもとられております。

老人ホームをつくるということも大切ですが、多くのお年寄りは住み慣れたところで暮らしたいという強い願いを持っておられます。お年寄りができるだけ元気で自宅で生活していただけますように、適度な運動をするなど、体調が悪くならないようにしていただくことが、お年寄りの皆さんが安心して暮らしていただくためにより大切なことだと思っております。

以上でございます。

第3グループ議長（谷口深琴さん） 13番。

13番（中村公哉さん） 質問に答えてくださって、ありがとうございます。

これで僕の質問を終わります。

第3グループ議長（谷口深琴さん） 25番清水奈月さん。25番。

25番（清水奈月さん） 私は、学校の通学路にあるプラタナスの木のことについて提案します。

私の通学路に、大きなプラタナスの木がたくさんあります。2学期の初めごろになると、毛虫が毎年大発生し、毛虫や毛虫のふんが降ってきます。そのため、晴れた日でも傘をさして歩く人がいます。しかし、毎年、毛虫等が降った後でないと木を切ってもらえず、登校中に刺された人もいて、とても困っています。毛虫が発生する前に何らかの対処をしていただきたいと思います。何か考えていただけませんかでしょうか。

毎年、登下校中、みんながそのときに毛虫をよけるため、道路に飛び出す人もいるし、危ないと思っています。私はもうことし卒業するのでその時期は通らなくなるのですが、在校生のために何とかしてあげてほしいと思いました。

だから、プラタナスの木の対処をもっと早い時期にしてもらうことを提案します。

第3グループ議長（谷口深琴さん） 都市建設部長。

都市建設部長（寺嶋 勲さん） 清水さんのプラタナスの木の提案についてお答えいたします。

亀山小学校の通学路にある大きなプラタナスの街路樹は、並木道の景色を彩っております。このような樹木は、道路に日陰をつくるだけでなく、昆虫や野鳥のすみかになり、四季の季節感を味わえるなど、心を気持ちよくし、空気をきれいにする効果があります。また、強い風を防いだり、火事の際に延焼を防ぐ防火帯になるなど、街路樹はそのほかにもいろいろな役割を果たしています。一方、大木に成長すると、街路樹が必要以上に大きくならないように剪定をしたり、病害虫を駆除するための薬剤散布が大がかりになるなど、街路樹を良好な状態に保つための管理が大変になってきます。

清水さんが提案された亀山小学校の通学路にあるプラタナスの街路樹ですが、彦根市中でも有数の並木として、地域の人たちに親しまれています。しかし、毎年毛虫が大量に発生し、困っています。彦根市では、毛虫を退治するために薬剤を散布していますが、この薬は毛虫に直接かけないと効果がありませんので、毛虫の発生が確認されてから散布を行っています。しかし、彦根市内には多くの街路樹があり、巡回のパトロールでは毛虫の発生時期がわかりづらいこともあって、発生後すぐに退治できないのが現状です。毛虫が広がらない、できるだけ早い時期に薬剤を散布できるよう、毛虫の発生を十分注意して観察をするようにしていきたいと思っています。皆さんも、通学の際に毛虫を見つけたら学校へ知らせていただきたいと思います。これからも市民の方々と一緒に、街路樹だけでなく公園の樹木など、まちの緑を大切に守っていきたくて考えています。

以上です。

第3グループ議長（谷口深琴さん） 25番。

25番（清水奈月さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

第3グループ議長（谷口深琴さん） 24番田辺雪瑛さん。24番。

24番（田辺雪瑛さん） 私は、捨てられるペットについて質問します。

日本では、毎年たくさんの犬や猫などのペットが、飼い主の勝手な理由で保健所に連れてこられ、殺処分されています。そうしたペットを減らすために、動物愛護センターなどと呼ばれている犬や猫など捨てられたペットを保護している施設が、犬や猫の譲渡会を行ったり、しつけ教室みたいなものを開いたりしています。

彦根市には殺処分施設はありませんが、捨てられるペットを減らすためにどのような活動をしているのですか。それともう一つ、ペットを捨てたり、かわいそうなことをする人をなくすためにどんなことをしていますか。

第3グループ議長（谷口深琴さん） 市民環境部長。

市民環境部長（東 幸子さん） 田辺さんのご質問にお答えいたします。

ペットを飼うときには、動物の命を大切にすることとを基本に、動物への関心と理

解を深め、ともに生き、最後まで面倒を見るという気持ちが必要です。しかし、最近は、ペットが大きくなり過ぎて世話が大変という理由などで、捨てられるペットが増えています。

毎年9月20日から26日までの動物愛護週間に、市の施設にポスターを掲示したり、「広報ひこね」に記事を掲載し、ペットを飼っている人の勝手な理由で捨てることのないよう、一生の飼育をお願いしております。

この動物愛護週間では、彦根市だけでなく、国や県でも啓発が行われていますが、捨てられるペットの数は減っておりません。これは全国的に問題となっているため、国で対策がとられています。国では、動物の愛護及び管理に関する法律で、47都道府県すべてに動物愛護管理推進計画をつくるように定めています。これを受けて、滋賀県では平成20年7月に滋賀県動物愛護管理推進計画がつけられました。計画の中には、動物の適正な飼い方や一生の飼育を進めるためにすべきことが書かれています。今後、これらのことを進めていくには、県だけでは難しいので、市役所や町役場の職員、獣医さんの会、動物保護管理協会など関係団体で話し合いを進めたところです。

彦根市では、動物愛護について今後も「広報ひこね」での啓発などを続けていきます。ペットは話すことができませんので、飼い主の気持ちにより将来が決まってしまう。ペットを飼う人みんなが、田辺さんのように優しい気持ちを持った飼い主になっていただくことが大事だと思っています。

以上です。

第3グループ議長（谷口深琴さん） 24番。

24番（田辺雪瑛さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

第3グループ議長（谷口深琴さん） 以上で質問を終了します。

これで平成22年2月彦根市子ども議会を閉会します。

皆さん、お疲れさまでした。

午後0時02分閉会

会議録署名議員

第1グループ議長	吉岡	あや音
第2グループ議長	辻	貴子
第3グループ議長	谷口	深琴
議 員	鹿島	沙也香
議 員	角田	凌